

OWNER'S MANUAL

CB1000F
CB1000F SE

Honda 車をお買いあげいただきありがとうございます。
安全で快適なバイクライフをお楽しみください。

この取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記を確認してください。
- お車の正しい取り扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

安全運転の基本として以下は重要ですので、お守りください。
- この取扱説明書を、よくお読みください
- 取扱説明書の推奨手順に従ってください
- 安全に関する表示を理解し、守ってください

安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、右記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠ **危険** **指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの**

⚠ **警告** **指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの**

⚠ **注意** **指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの**

その他の表示

アドバイス　お車のために守っていただきたいこと

車の仕様、その他の変更により、この本の表紙や内容と実車が一致しない場合があります。
車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。
この取扱説明書は、CB1000F SE を中心に説明しています。イラストは CB1000F SE をベースにしています。

目次

安全なライディング P. 2

操作ガイド P. 14

メンテナンス P. 116

こんなときは P. 152

インフォメーション P. 171

スペック P. 187

索引 P. 189

安全なライディング

この章では安全な運転のために必要な情報を記載しています。
安全のためによくお読みください。

安全上守っていただきたいこと ..... P. 3
安全運転のために ..... P. 3
運転するときの注意 ..... P. 5
アクセサリーと改造について ..... P. 11
積載について ..... P. 12

安全上守っていただきたいこと

安全のため、日常的に次の内容をお守りください。

- 道路運送車両法で定められた日常点検・定期点検を行ってください
- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください
- 排気ガスには一酸化炭素（CO）などの有害な成分が含まれているため、エンジンは、風通しの良い場所でかけてください

安全運転のために

- 走行中、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください
- 同乗者が両手でからだを固定し、両足を後席用ステップにのせているか確認してください
- 急激なハンドル操作や片手運転などはさけ、安全な運転を心がけてください
- 同乗者、他の車両、歩行者などに対する配慮を欠かさないでください
- ウインドスクリーン、フェアリングと車体の間に物を置かないでください。

次ページに続く

乗車時の服装

運転者と同乗者は必ずヘルメットを着用し、天候や走行状況に応じ、安全性が高く運転操作のしやすい、被視認性の高い二輪車用の服装を着用してください。

ヘルメット

安全基準を満たし、頭のサイズにあった視認性の高いもの

- 二輪車用で PSC、SG マークか JIS マークのあるものを推奨します
- 正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください
- 視界を妨げないフェイスシールドまたはゴーグルなどを使用し、眼を保護してください

⚠ 警告

ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者と同乗者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

グローブ

摩擦に強い皮製のもの

ブーツまたはライディングシューズ

滑りにくく、くるぶしまで覆われたもの

ジャケット・パンツ

プロテクターを備え、体の露出の少ない長袖・長ズボン

運転するときの注意

慣らし運転

適切な慣らし運転を行うと、お車の性能をより良い状態に保つことができます。

慣らしのポイント（走行距離 500 km まで）

- 急発進、急加速をさける
- 急ブレーキ、急なシフトダウンをさける
- 控えめな運転をする

ブレーキ

次の項目に注意してください。

- 制動力を効果的に得るために前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う
- 不必要な急ブレーキ、急なシフトダウンをしない
  - ▶ タイヤをロックさせるなど、車体の安定性を損なうおそれがあります。
  - ▶ コーナリングの際は、コーナーの手前で減速してください。
- 雨天走行など滑りやすい路面に注意する
  - ▶ タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。
- 連続したブレーキ操作をしない
  - ▶ 長い坂や急な坂で繰り返しブレーキをかけると、ブレーキの温度が上昇して効きが悪くなるおそれがあります。エンジンブレーキと断続的なブレーキ操作を併用してください。

次ページに続く

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABS は、直進制動時のブレーキのかけすぎによる車輪ロックを制御する装置です。
ABS は、IMU（慣性センサー）からの情報をもとに制御します。
ABS を正常に機能させるため、必ず前後とも指定のタイヤ、スプロケットをお使いください。

- 制動距離を短くするためのものではない
  - ▶ ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
- 低速（約 10 km/h 以下）では普通のブレーキと同じ作動になる
- ブレーキ操作時に、レバーやペダルに反動が生じることがある
  - ▶ ABS が作動しているときの現象で異状ではありません。反動の強さは状況によって異なります。

エンジンブレーキ

スロットルを戻すと、エンジンブレーキが効きます。さらにエンジンブレーキを必要とするときは 5 速、4 速・・・とシフトダウンを行ってください。急激なシフトダウンは、尻振りなどの原因や、エンジンやトランスミッションに悪影響を与えます。また、長い下り坂や急な下り坂などでは、断続的なブレーキ操作とエンジンブレーキを併用してください。

雨天または水たまりを走行したとき

路面が滑りやすくなったり、ブレーキの効き具合が変化します。慎重なブレーキ操作を心がけてください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキを乾かしてください。

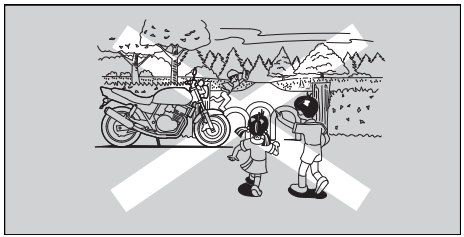
駐車するとき

- 交通の邪魔にならない平坦で足場のしっかりした安全な場所に駐車する
- やむをえず傾斜地や足場の悪い場所に駐車するときは、車の転倒や動き出しがないよう安全処置に十分注意する
- 盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、メインスイッチを施錠して Honda SMART Key を携帯する P. 84
  必要に応じて Honda SMART Key システムを作動停止状態にする P. 82

サイドスタンドでの駐車

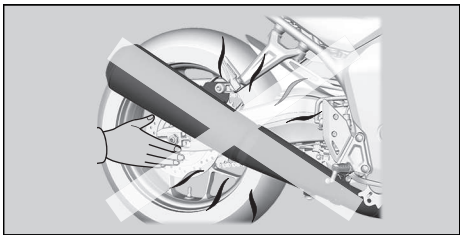
1. メインスイッチを○（Off）にする。
   サイドスタンドを下げ、車の重量がサイドスタンドにかかるまで、車をゆっくり左に傾ける。
2. ハンドルバーを左いっぱいにきる。
   ▶ ハンドルを右にきった状態での駐車は、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。
3. ハンドルロックをかけ、メインスイッチを施錠する。P. 84

- マフラーなどが熱くなっているので、他の方が触れることのない場所に駐車する





● エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラー、エンジンなどに触れない



⚠ 注意

マフラー、エンジン、ブレーキなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。触れるとヤケドを負う可能性があります。

- マフラー、エンジン、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで触れないこと
- 高温になる部分に可燃物が接触せず、他の方が触れることのないよう配慮すること

燃料補給およびガソリンの取り扱い

エンジン、燃料装置、触媒装置の損傷を防ぐため、下記に注意してください。

- 無鉛プレミアムガソリンを使用する
- 高濃度アルコール含有燃料を補給しない
- 軽油や粗悪ガソリン（長期間保管したガソリン）、または不適切な燃料添加剤を使わない
- 燃料タンクの中に、泥、ほこり、水などを入れない

⚠ 警告

ガソリンは燃えやすくヤケドを負ったり爆発して重大な傷害に至る可能性があります。また身体に帯電した静電気の火花により引火する可能性があります。

ガソリンを取り扱うときは以下のことを守ってください。

- エンジンを止め、火元を遠ざける
- 給油は必ず屋外で行う
- こぼれたガソリンは、すぐに拭き取る
- 給油作業前に車体や給油機などの金属部分に触れて静電気を除去する

次ページに続く

Honda セレクタブル トルク コントロール

このシステムは、アクセルオンの状態で後輪の空転を検知した際に、選択したトルクコントロールレベルに応じて後輪への駆動力を制限します。
くわえて、加速時の急激なウイリー挙動をトルクコントロールレベルに応じて緩和します。

- トルクコントロールレベルを低く設定した場合、アクセルオンの状態で後輪が空転する場合がある
  ▶ 運転技術、運転状況に応じてトルクコントロールレベルを選んでください。
- トルクコントロールは減速時には作動せず、エンジンブレーキによる後輪のロックは防止しない
  ▶ スロットルを急に閉じる操作はさけてください。特に、滑りやすい路面ではさけてください。
- トルクコントロールは、急なスロットル操作や誤ったスロットル操作、道路状態などを補完するものではない
  ▶ 天候や路面状況に対して常に十分な注意をしてください。
- トルクコントロールを停止状態（OFF）にすることで、ぬかるみ、雪、砂地などからの脱出が容易になる場合やオフロード走行時にバランスやコントロールの維持が容易になる場合がある

トルクコントロールを正常に機能させるため、タイヤやエンジンおよび後輪側のスプロケットは指定のものをお使いください。

アクセサリーと改造について

アクセサリーを装着する際は、安全面から Honda 純正アクセサリーを推奨します。Honda 販売店にご相談ください。
Honda 販売店で取り付けられた Honda アクセサリーなどの取り扱いについては、その商品に付属の説明書をお読みください。
車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。不正改造は法律に触れることはもちろん、他の迷惑行為となります。
車の改造は保証の適用を除外されます。

⚠ 警告

不適切なアクセサリーや改造は、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

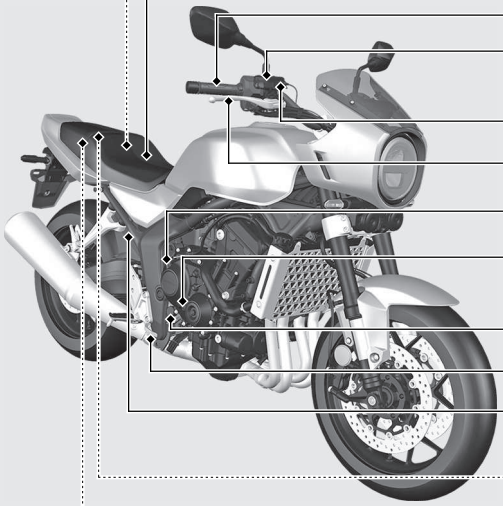
アクセサリーを装着する際は、Honda 販売店にご相談のうえ、取扱説明書に従ってください。

積載について

- 荷物を積むと積まないときにくらべて操縦安定性が変わるため、安全な速度で走行してください
- 荷物の積みすぎに注意し、確実に固定して安全な速度で走行してください
- ハンドル操作ができなくなる場合があるので、ハンドル付近に物を置かないでください
- ヘッドライト、ウィンカー、ストップ／テールランプ、マフラー周辺への積載はさけてください
  ▶ 過熱によりレンズが溶けたり、荷物が損傷する場合があります。
- 貴重品やこわれ易いものは積まないでください

各部の名称

CB1000F SE



書類入れ P.109

シート P.130

スロットルグリップ P.143

前輪ブレーキリザーバータンク P.137

ETC アンテナ P.115

前輪ブレーキレバー P.144

オイルフィルキャップ P.133

エンジンオイルレベルゲージ P.133

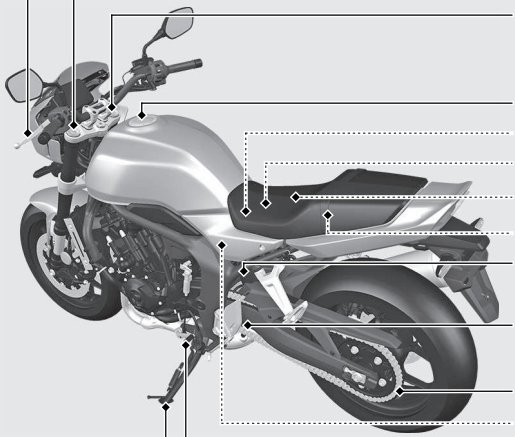
冷却水リザーバータンク P.135

リアブレーキペダル

後輪ブレーキリザーバータンク P.137

携帯工具 P.109

USB ソケット P.106

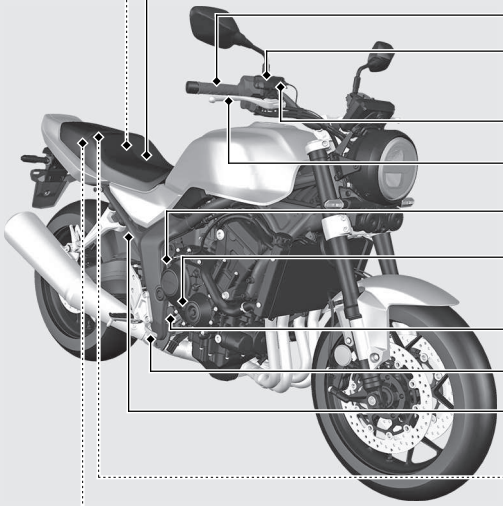


クラッチレバー P.140
フロントサスペンションスプリング
アジャスター P.145
フロントサスペンション
伸び側減衰力／縮み側減衰力
アジャスター P.146 P.147
燃料タンクキャップ P.105
バッテリー P.131
ヒューズボックス P.169
ETC 車載器 P.115
ヘルメットホルダー P.108
リアサスペンションスプリングアジャスター
P.148
リアサスペンション伸び側減衰力
アジャスター P.149
ドライブチェーン P.139
メインヒューズ／
ABS モーターヒューズ P.170
シフトペダル P.101
サイドスタンド P.7

次ページに続く

各部の名称 前ページの続き

CB1000F



書類入れ P.109

シート P.130

スロットルグリップ P.143

前輪ブレーキリザーバータンク P.137

ETC アンテナ P.115

前輪ブレーキレバー P.144

オイルフィルキャップ P.133

エンジンオイルレベルゲージ P.133

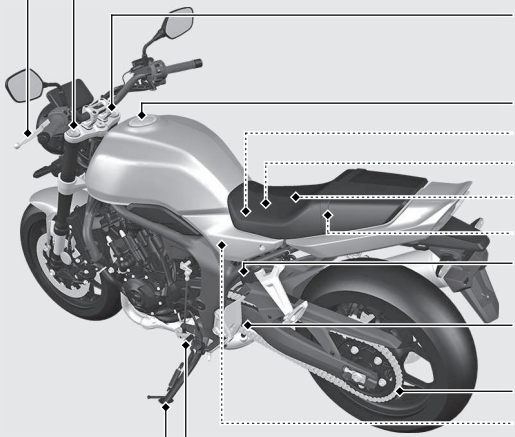
冷却水リザーバータンク P.135

リアブレーキペダル

後輪ブレーキリザーバータンク P.137

携帯工具 P.109

USB ソケット P.106



クラッチレバー P.140

フロントサスペンションスプリング
アジャスター P.145

フロントサスペンション
伸び側減衰力／縮み側減衰力
アジャスター P.146 P.147

燃料タンクキャップ P.105

バッテリー P.131

ヒューズボックス P.169

ETC 車載器 P.115

ヘルメットホルダー P.108

リアサスペンションスプリングアジャスター
P.148

リアサスペンション伸び側減衰力
アジャスター P.149

ドライブチェーン P.139

メインヒューズ／
ABS モーターヒューズ P.170

シフトペダル P.101

サイドスタンド P.7

メーター

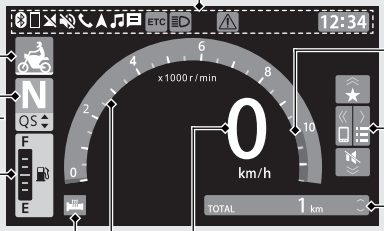


エンジンが停止した状態で長時間ディスプレイ機能を操作しないでください。バッテリーあがりの原因となります。

ディスプレイタイプ：サークル

ギアポジション表示 P.23

ライドモード P.93
現在のライドモードを表示します。



ステータスバー P.22

レッドゾーン（エンジン限界回転域）

選択エリア P.31 /
Honda RoadSync エリア P.88

情報表示エリア P.26 /
ポップアップ情報表示 P.68

スピードメーター（速度計）

タコメーター P.21

FUEL/RANGE エリア P.24

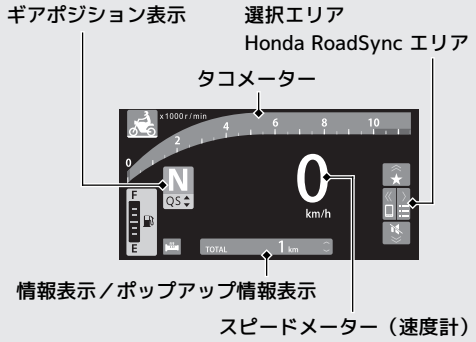
CB1000F SE
グリップヒーター表示灯 P.110
グリップヒーターがオンのときに点灯

次ページに続く

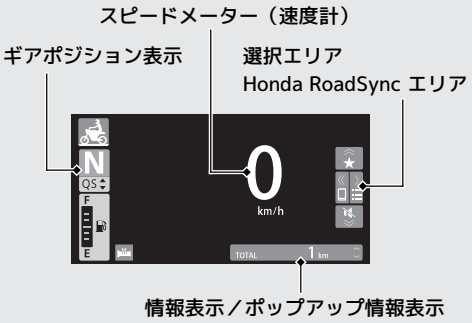
メーター 前ページの続き

このメーターには３つのディスプレイタイプがあります。
スピードメーター（速度計）やタコメーター、情報表示の配置や表示内容はタイプによって異なります。
初期設定はサークルです。
▶ ディスプレイタイプがシンプルのとき、タコメーターは表示されません。
ディスプレイタイプ： P.48

ディスプレイタイプ：バー



ディスプレイタイプ：シンプル



タコメーター

ディスプレイタイプがシンプルのとき、タコメーターは表示されません。

エンジン回転数が設定モードの「シフトポイント」で設定した値を超えるとタコメーターが点滅します。

この機能は OFF にすることができます。

シフトポイント： ➡P.46

ディスプレイタイプ： ➡P.48

NOTICE

エンジン回転数がレッドゾーンに入らないように運転してください。エンジン寿命に悪影響を与えます。

メーター 前ページの続き

ステータスバー



ステータスアイコン
Honda RoadSync のステータス
アイコンを表示します。 P.88

ETC 表示灯 P.115

ハイビームパイロットランプ（前照灯上向き表示灯）

警告灯
警告情報があると点灯します。
この警告灯はポップアップ情報にも表示されます。 P.68

時計（12 時間／24 時間表示）
時計の設定： P.56

ギアポジション／クイックシフター表示



ギアポジション表示

ギアポジションを表示します。

▶ トランスミッションの変速が正常に完了していない場合“-”が表示されます。

クイックシフター表示

CB1000F SE

表示なし：クイックシフターがオフ（作動しない）の状態です。

QS▲：クイックシフターがシフトアップのみオン（作動する）の状態です。

QS▼：クイックシフターがシフトダウンのみオン（作動する）の状態です。

QS▲▼：クイックシフターがシフトアップとシフトダウンともにオン（作動する）の状態です。

クイックシフター：➡P.45 ➡P.102

メーター 前ページの続き

FUEL/RANGE エリア

このエリアでは FUEL（燃料計）と RANGE（走行可能距離）の 2 つの表示を切り替えることができます。

FUEL モードの切り替え： P.36

FUEL（燃料計）



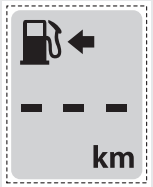
燃料残量が約 3.0 ℓ を下回ると自動的に RANGE に切り替わります。 P.25

燃料計の故障表示： P.163

アドバイス

燃料計が 1 つ（E）に近づいたら、早めに給油してください。燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

RANGE（走行可能距離）



現在の燃料残量で走行可能な距離の推定値を表示します。
表示された走行可能距離は走行状態から算出されたものであり、
実際の走行可能距離とは異なる場合があります。

表示範囲： 999 ～ 5 km

- 初期表示として "---" を表示します。
- 走行可能距離が 999 km を超えた場合、"999"を表示します。
- 算出された走行可能距離が 5 km 未満または燃料残量が 1.0 L 未満のとき、"---"を表示します。

上記の場合をのぞいて表示が"---"になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

メーター 前ページの続き

情報表示エリア

情報表示エリアには、さまざまな車両情報が表示されます。

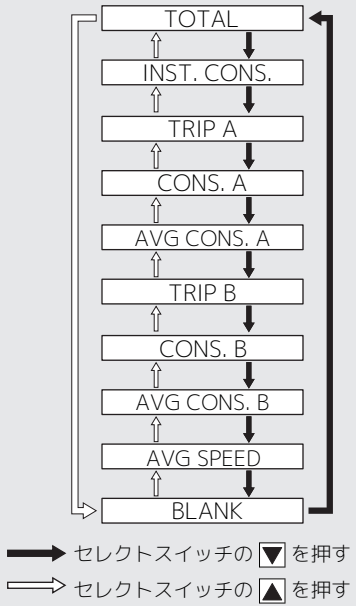
初期設定では以下が設定されています。

- オドメーター [TOTAL]
- 瞬間燃費 [INST. CONS.]
- トリップメーター A [TRIP A]
- トリップメーター B [TRIP B]

情報表示エリアには任意の項目を設定できます。[BLANK]を含めて最大 10 項目まで設定可能です。項目を選択しなかった場合、または[BLANK]のみを選択した場合は、情報表示エリアには何も表示されません。

情報表示エリアの項目を変更するには

P.39 P.51



情報表示エリアに設定できる項目は以下のとおりです。

- オドメーター [TOTAL]
- 瞬間燃費 [INST. CONS.]
- トリップメーター A [TRIP A]
- トリップメーター A 燃料消費量 [CONS. A]
- トリップメーター A 平均燃費 [AVG CONS. A]
- トリップメーター B [TRIP B]
- トリップメーター B 燃料消費量 [CONS.B]
- トリップメーター B 平均燃費 [AVG CONS. B]
- 平均車速 [AVG SPEED]
- ブランク（BLANK）

オドメーター [TOTAL]

総走行距離を表示



表示が "------" になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

メーター 前ページの続き

瞬間燃費 [INST. CONS.]

瞬間燃費を表示

表示範囲：0 ～ 40 km/L

- 速度が 5 km/h 未満の場合は 0 セグメントが表示されます。



0 セグメント



上記の場合をのぞいて表示が"0 セグメント" になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

トリップメーター [TRIP A/B]

トリップメーターを 0.0 km にリセットしてからの走行距離を表示





表示が "----.-" になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

トリップメーターをリセットするには：

P.37

燃料消費量 [CONS. A/B]

トリップメーターをリセットしてからのそれぞれのトリップメーターの燃料消費量を表示
表示範囲：0.0 ～ 299.9 L





表示が "---.-" になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

燃料消費量をリセットするには：P.37

平均燃費 [AVG CONS. A/B]

トリップメーターをリセットしてからのそれぞれのトリップメーターの平均燃費を表示
平均燃費はトリップメーター A または B に基づいて算出します。
表示範囲：0.0 ～ 299.9 km/L

- 299.9 km/L を超えたときは "299.9" を表示します。
- トリップメーターをリセットしたときは "---.-" を表示します。





上記の場合をのぞいて表示が "---.-" になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

平均燃費をリセットするには：P.37

メーター 前ページの続き

平均車速 [AVG SPEED]

エンジンを始動してからの平均速度を表示
表示範囲：0 ～ 299 km/h

- 初期表示は “---” を表示します。
- エンジン始動後の走行距離が 0.2 km 未満の場合は “---” を表示します。
- エンジン始動後の経過時間が 16 秒未満の場合は “---” を表示します。



上記の場合をのぞいて表示が “---” になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

ブランク（BLANK）

何も表示しない状態です。

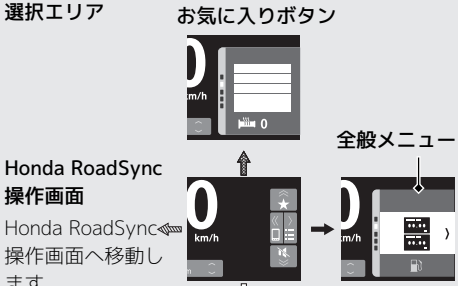
選択エリア

選択できる項目は以下のとおりです。

- お気に入りボタン P.32
- 全般メニュー P.33
- Honda RoadSync 操作画面 P.88
- Honda RoadSync ミュート

Honda RoadSync 操作画面と Honda RoadSync ミュートは、スマートフォンと接続したときのみ使用できます。

Bluetooth 機器を接続するには P.88



セレクトスイッチの ▲ を押し続ける
セレクトスイッチの ▶ を押す
セレクトスイッチの ◀ を押し続ける
セレクトスイッチの ▼ を押し続ける

次ページに続く

メーター 前ページの続き

お気に入りボタン

CB1000F

全般メニューで選択することなくトリップリセットモードまたは、フューエルモードのいずれかの操作ができます。 初期設定ではトリップリセットモードが設定されています。

CB1000F SE

全般メニューで選択することなくトリップリセットモード、フューエルモードまたは、グリップヒーターモードのいずれかの操作ができます。 初期設定ではグリップヒーターモードが設定されています。

お気に入りボタンの設定を変更するには
P.39 P.55

セレクトスイッチの▲を押し続けてお気に入りボタンを開きます。 各モードの操作は全般メニューと同じです。

- **トリップリセットモード** P.37
- **フューエルモード** P.36
- CB1000F SE
  グリップヒーターモード P.35

全般メニュー

以下を選択できます。

- ステータスモード
- CB1000F SE
  グリップヒーターモード
- フューエルモード
- トリップリセットモード
- 設定モード

セレクトスイッチの▶を押して全般メニューを開きます。 セレクトスイッチの▲または▼を押して、ステータスモード、グリップヒーターモード、フューエルモード、トリップリセットモード、設定モードを選択します。



セレクトスイッチの ◀ を押して全般メニューを閉じます。

ステータスモードの車両情報表示中を除き、約 10 秒間スイッチを操作しない場合も全般メニューが閉じます。

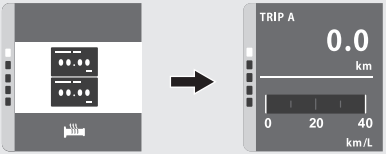
次ページに続く

メーター 前ページの続き

ステータスモード

ステータスモードには、さまざまな車両情報が表示されます。
車両情報は 5 ページあり、1 ページ目から 4 ページ目の各ページには、2 つの情報が表示されます。5 ページ目には、選択したライドモードが表示されます。

ステータスモードを選択した状態でセレクトスイッチの ▶ を押すと、車両情報ページに移動します。



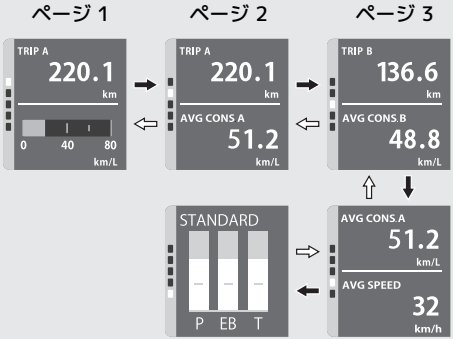
車両情報ページに表示される 4 ページの項目は任意に変更できます。

車両情報ページの項目を変更するには

P.39 P.51

車両情報ページの切り換え

車両情報ページを切り換えるには、セレクトスイッチの ▼ または ▲ を押してください。



⟹ セレクトスイッチの ▲ を押す

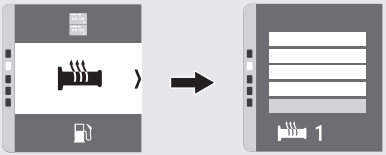
➡ セレクトスイッチの ▼ を押す

グリップヒーターモード

CB1000F SE

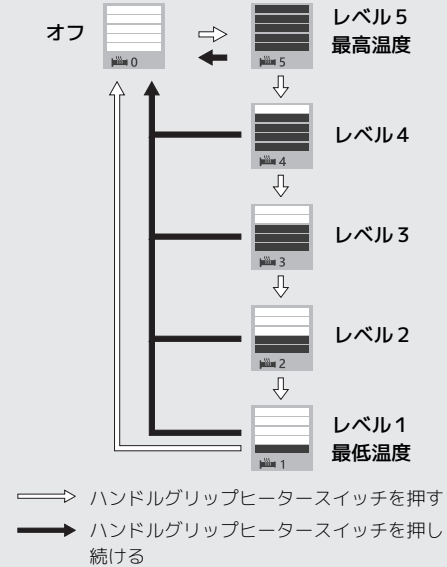
ハンドルグリップヒーターのオフおよびヒーターレベルの変更ができます。

1 グリップヒーターモードを選択し、セレクトスイッチの ▶ を押します。 P.33



2 ハンドルグリップヒータースイッチでヒーターレベルを選択します。

ハンドルグリップヒータースイッチ P.110



グリップヒーターの故障表示 P.164

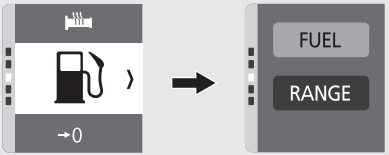
次ページに続く

フューエルモード

FUEL／RANGE エリアに FUEL（燃料計）と RANGE（走行可能距離）のどちらを表示するか選択することができます。 P.24

▶ 燃料残量が約 3.0 ℓ 未満になると、自動的に RANGE が表示されます。

❶ フューエルモードを選択し、セレクトスイッチの ▶ を押します。 P.33



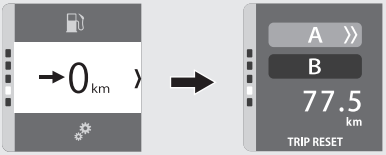
❷ セレクトスイッチの ▼ と ▲ を押して、FUEL と RANGE のどちらを表示するか選択します。



トリップリセットモード

トリップメーター A またはトリップメーター B をリセットします。

❶ トリップリセットモードを選択し、セレクトスイッチの ▶ を押します。 P.33

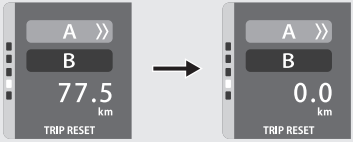


❷ セレクトスイッチの ▲ または ▼ を使って、リセットするトリップメーターを選択します。



❸ セレクトスイッチの ▶ を押し続け、選択したトリップメーターをリセットします。

▶ トリップメーター A／B をリセットすると、同時にそれぞれのトリップメーターに基づいた燃料消費量[CONS. A/B]、平均燃費[AVG CONS. A/B]がリセットされます。



トリップ A 自動リセットモードをオンにした場合、給油後、燃料計のセグメントが 2 つ以上増えた状態で 0.1 km 走行すると、トリップメーター A、トリップメーター A 燃料消費量、トリップメーター A 平均燃費を自動的にリセットすることができます。

トリップ A 自動リセット： P.39 P.47

次ページに続く

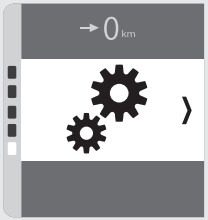
メーター 前ページの続き

設定モード

各種項目の設定ができます。 P.39

設定モードを選択し、セレクトスイッチの ▶ を押します。 P.33

▶ 設定モードに移行するには、車両を停止させてください。



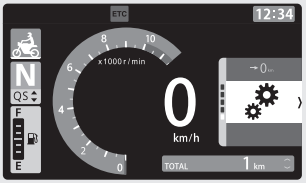
各種項目の設定

設定モードへの移行

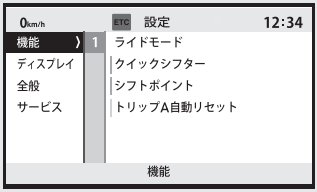
選択エリアで設定モードが表示された状態でセレクトスイッチの ▶ を押します。 P.33

▶ 設定モードに切り換えると時計、警告灯、速度が画面の上部に表示されます。

通常表示



設定モード



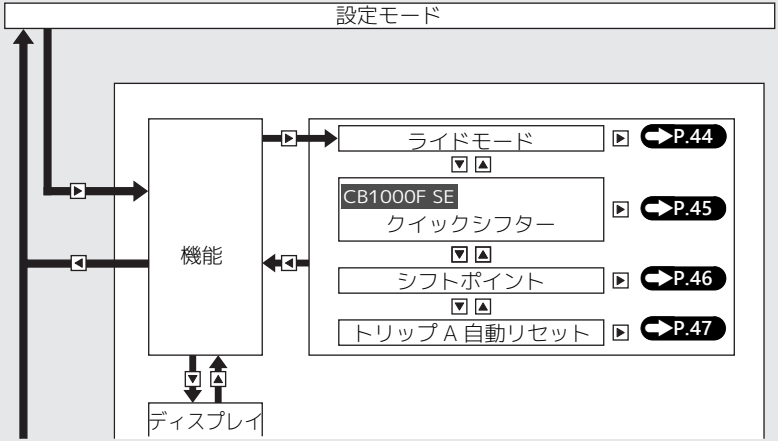
通常表示画面に戻るには

- 「機能」、「ディスプレイ」、「全般」、「サービス」を選択中にセレクトスイッチの ◀ を押します。
- イグニッションスイッチを ○（Off） にし、再び |（On）にします。

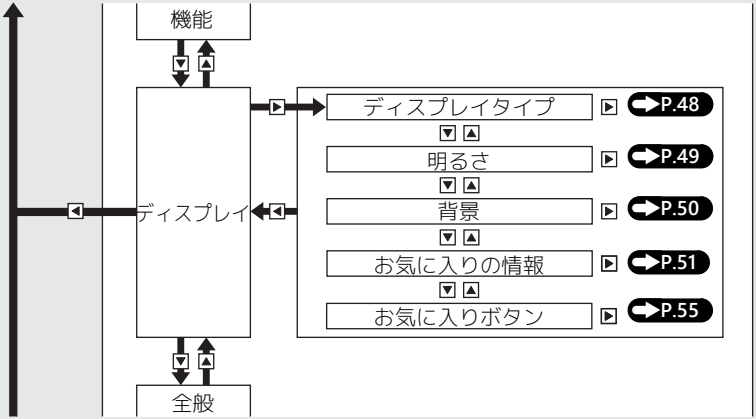
次ページに続く

メーター 前ページの続き

設定の流れ

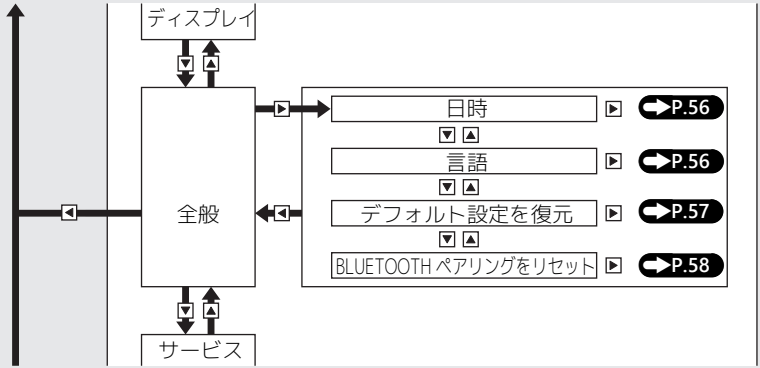


▲ : セレクトスイッチの▲を押す
▶ : セレクトスイッチの▶を押す
◀ : セレクトスイッチの◀を押す
▼ : セレクトスイッチの▼を押す

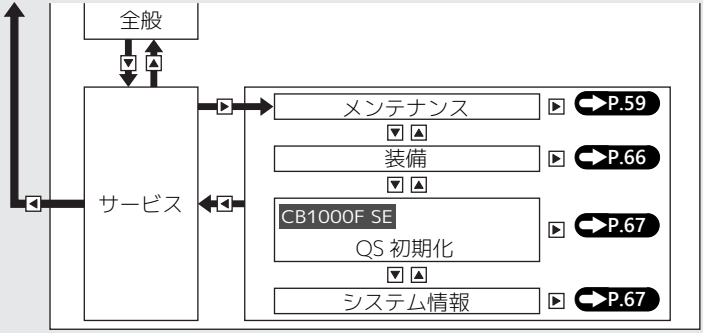


▲ : セレクトスイッチの▲を押す
▶ : セレクトスイッチの▶を押す
◀ : セレクトスイッチの◀を押す
▼ : セレクトスイッチの▼を押す

次ページに続く



▲ : セレクトスイッチの▲を押す
▶ : セレクトスイッチの▶を押す
◀ : セレクトスイッチの◀を押す
▼ : セレクトスイッチの▼を押す



▲ : セレクトスイッチの▲を押す
▶ : セレクトスイッチの▶を押す
◀ : セレクトスイッチの◀を押す
▼ : セレクトスイッチの▼を押す

次ページに続く

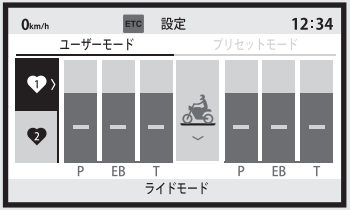
機能

ライドモード P.93

1. ユーザーモード

ユーザーモードの設定ができます。

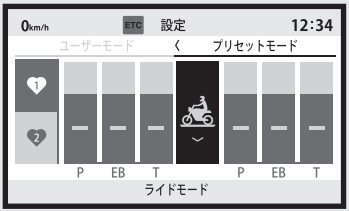
1. セレクトスイッチの ▲ または ▼ でユーザー 1 かユーザー 2 を選択します。
2. セレクトスイッチの ◀ または ▶ を押してパラメーターを選択します。
3. セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して設定値を選択します。
4. セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。



2. プリセットモード

プリセットされた STANDARD、SPORT、RAIN、のライドモード設定値を確認できます。

1. セレクトスイッチの ▶ を押してプリセットモードを選択します。
2. セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して確認したいライドモードを選択します。
3. セレクトスイッチの ◀ を押してユーザーモードに戻ります。



クイックシフター

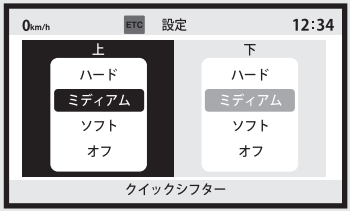
CB1000F SE

クイックシフターの設定ができます。
上：シフトアップ操作時の設定
下：シフトダウン操作時の設定

オフ	作動しない
ソフト	作動する
ミディアム	作動する
ハード	作動する

「ソフト」、「ミディアム」、「ハード」は、シフトペダル操作時の荷重を示します。
「オフ」のとき、クイックシフターは作動しません。

❶ セレクトスイッチの ◀ または ▶ を使って「上」または「下」を選択します。
❷ セレクトスイッチの ▲ または ▼ を使って、設定を変更します。
❸ セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。



次ページに続く

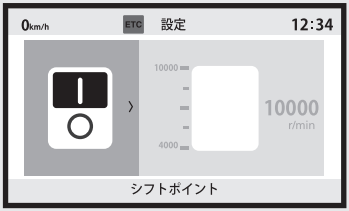
メーター 前ページの続き

シフトポイント

(On) / ○ (Off) : シフト表示のオン／オフを切り換えることができます。P.21

シフトポイント : シフト表示でタコメーターが点滅し始めるエンジン回転数を設定できます。

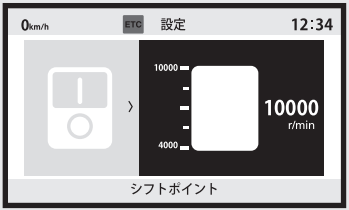
❶ セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して（オン）と ○（オフ）を切り替えます。



❷（オン）を選んだ場合、セレクトスイッチの ▶ を押して、シフトポイントの設定に移行することができます。

❸ セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して、値を設定します。

▶ 設定範囲：4,000 ～ 10,000 r/min



❹ セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。

トリップ A 自動リセット

トリップ A 自動リセットモードの▌（オン）と○（オフ）を切り替えることができます。

P.37

1. セレクトスイッチの▲または▼を押して▌（オン）と○（オフ）を切り替えます。
2. セレクトスイッチの◀を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。



次ページに続く

メーター 前ページの続き

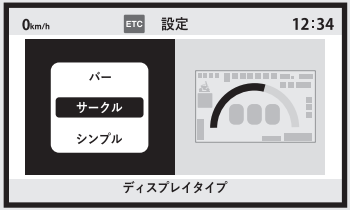
ディスプレイ

ディスプレイタイプ

ディスプレイタイプの変更ができます。

P.20

1. セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押してディスプレイタイプ（「バー」／「サークル」／「シンプル」）を選択します。
2. セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。



ディスプレイタイプ

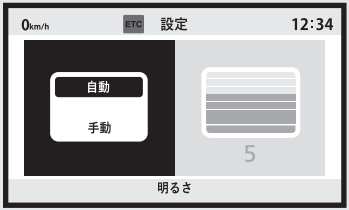
明るさ

ディスプレイの明るさを自動調節または 8 段階に調節できます。

ディスプレイの自動調光： P.176

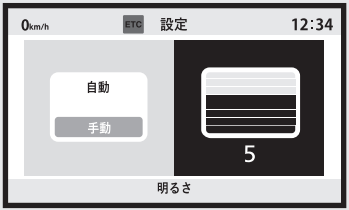
ディスプレイが高温になると画面が暗くなることがあります。温度が下がっても画面の明るさが戻らない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

❶ セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して「自動」と「手動」を切り替えます。



❷「手動」を選んだ場合、セレクトスイッチの ▶ を押して、明るさの設定に移行することができます。

❸ セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して、明るさを設定します。



❹ セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。

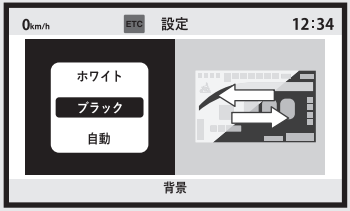
次ページに続く

メーター 前ページの続き

背景

ディスプレイの背景色を「ホワイト」、「ブラック」、「自動」から選択できます。

ディスプレイの自動調光： P.176



1. セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して背景色を選択します。
2. セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。

お気に入りの情報

情報表示エリアやステータスモードの車両情報ページの項目を変更できます。

情報表示エリア

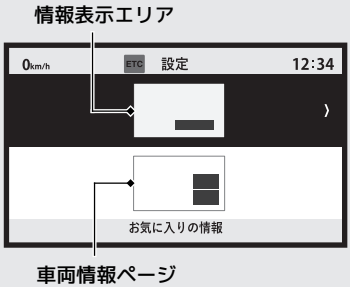
情報表示エリアの項目を変更できます。（情報表示エリア：P.26）

情報表示エリアの設定: P.52

車両情報ページ

ステータスモードの車両情報ページの項目を変更できます。（車両情報ページ：P.34）

車両情報ページの設定: P.53



セレクトスイッチの ▲ または ▼ で情報表示エリアまたは車両情報ページを選択します。

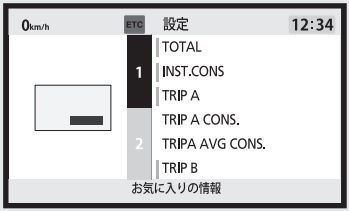
セレクトスイッチの ▶ を押して情報表示エリアまたは車両情報ページの設定に移動します。

次ページに続く

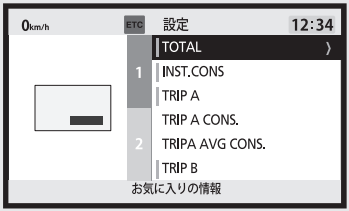
メーター 前ページの続き

情報表示エリアの設定

❶ セレクトスイッチの ▲ または ▼ で"1" または "2" を選択します。



❷ セレクトスイッチの ▶ を押して "1" または "2" を設定し、項目の選択へ移動します。



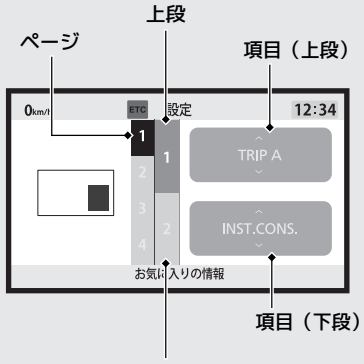
❸ セレクトスイッチの ▲ または ▼ で項目を選択します。

❹ 選択した項目でセレクトスイッチの ▶ を押して設定します。

- ▶ 設定した項目には緑色のカーソルが表示されます。
- ▶ 設定できる項目は"BLANK"を含めて最大 10 項目までです。

❺ セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。

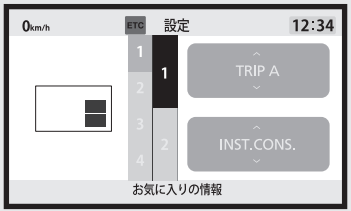
車両情報ページの設定



❶ セレクトスイッチの ▲ または ▼ で変更するページを選択します。

❷ セレクトスイッチの ▶ を押してページを決定し、"1"（上段）または "2"（下段）の選択へ移動します。

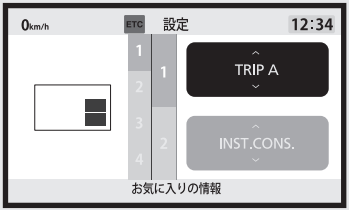
❸ セレクトスイッチの ▲ または ▼ で"1"（上段）または"2"（下段）を選択します。



❹ セレクトスイッチの ▶ を押して項目の選択へ移動します。

メーター 前ページの続き

❺セレクトスイッチの ▲ または ▼ で項目を選択します。

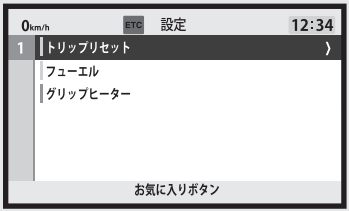


❻セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。

お気に入りボタン

お気に入りボタンに設定する項目を変更することができます。P.32

1. セレクトスイッチの ▲ または ▼ で項目を選択します。
2. セレクトスイッチの ▶ を押して項目を設定します。
   - ▶ カーソルが緑色になっている項目が適用されています。
3. セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。

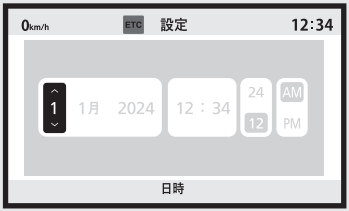


メーター 前ページの続き

全般

日時

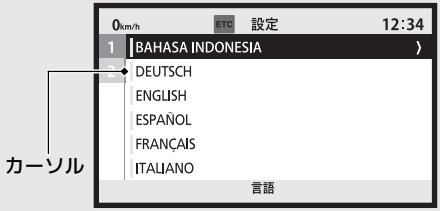
❶ セレクトスイッチの ◀ または ▶ を押して日、月、年、時、分、「24／12」と「AM／PM」を選択します。
❷ セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して、設定を変更します。
▶ 24 時間表示を選択した場合、「AM／PM」は選択できません。
❸ セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。



言語

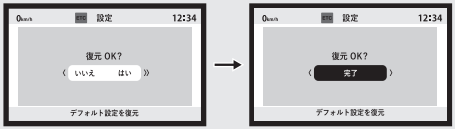
言語の切り替えができます。

❶ セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して、言語を選択します。
❷ セレクトスイッチの ▶ を押すと、選択中の言語に切り替えます。
▶ カーソルが緑色になっている言語が適用されています。
❸ セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。



デフォルト設定を復元

セレクトスイッチの ▶ を押し続けると、メーターの設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。



工場出荷時に戻る設定値

- ライドモード
- CB1000F SE
  クイックシフター
- シフトポイント
- トリップ A 自動リセット
- ディスプレイタイプ
- 明るさ
- 背景
- お気に入りの情報
- CB1000F SE
  お気に入りボタン
- 言語

次ページに続く

BLUETOOTH ペアリングをリセット

Bluetooth®のペアリング情報をリセットできます。
ペアリング情報をリセットするときは、安全な場所に停車してください。

Bluetooth 機器を接続するには： P.90

ステータスアイコンを見て、リセットを行いたいスマートフォンが車両に接続されていることを確認してください。

ステータスアイコン： P.22

❶ セレクトスイッチの ◀ または ▶ を押して「いいえ」（リセットしない）または「はい」（リセットする）を選択します。

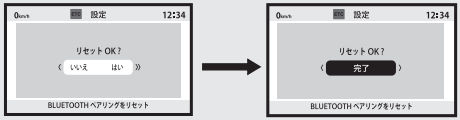
❷ 「いいえ」を 選択する場合

セレクトスイッチの ◀ を押すと、ペアリング情報は保持されたまま前のメニューに戻ります。

「はい」を 選択する場合

セレクトスイッチの ▶ を押し続けると、スマートフォンとの接続を切断し、ペアリング情報をリセットします。

► リセットが完了すると、「完了」が表示されます。



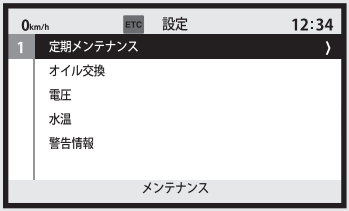
► 車両からペアリング情報を削除してもスマートフォンにペアリング情報が残っていると、スマートフォンが車両に再接続される場合があります。

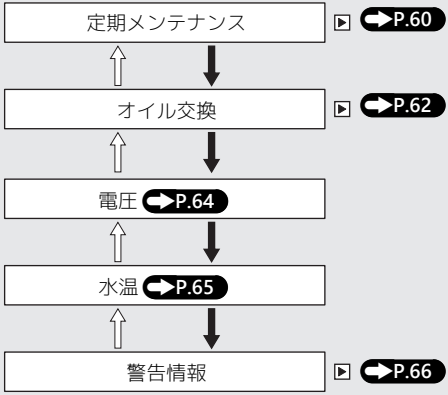
サービス

メンテナンス

以下を選択できます。

- 定期メンテナンス
- オイル交換
- 電圧
- 水温
- 警告情報





：セレクトスイッチの ▼ を押す

：セレクトスイッチの ▲ を押す

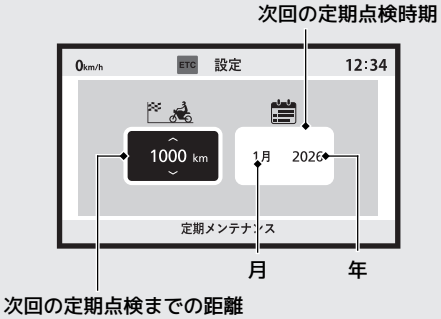
▶ ：セレクトスイッチの ▶ を押す

次ページに続く

メーター 前ページの続き

定期メンテナンス

次回点検時期の確認と変更ができます。



表示範囲：

距離: ------、12,000 ～ -99,999 km

► 0 km を超えると "-" を表示します。

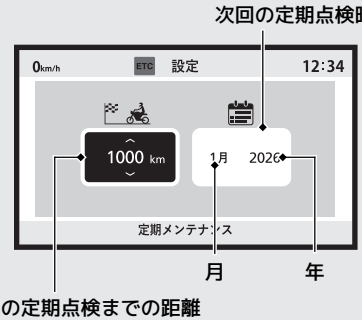
日付:

月: ---、1 月 ～ 12 月

年: ----、2020 ～ 2099

次回点検時期の設定

❶ セレクトスイッチの ▶ または ◀ で"距離"、"月"または "年"を選択します。



❷ 選択した項目でセレクトスイッチの ▲ または ▼ で値を変更します。

- ▶ "距離" の設定中にセレクトスイッチの ▲ を押し続けると、1,000 の位ごとに数値が上昇します。
- ▶ 距離の設定範囲：------、100 ～ 12,000 km
  初期設定：------
- ▶ 月の設定範囲：---、 1 月 ～ 12 月
  初期設定：---
- ▶ 年の設定範囲：----、 2020 ～ 2099
  初期設定：----
- ▶ 距離と年月を初期設定に設定した場合、メンテナンス情報（P.68）は表示されません。

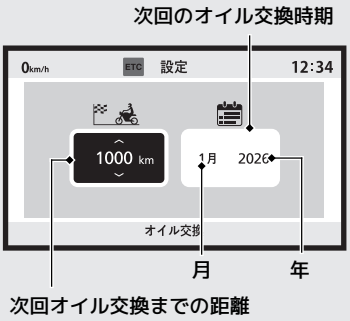
❸ セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。

次ページに続く

メーター 前ページの続き

オイル交換

次回オイル交換時期の確認と変更ができます。



表示範囲：

距離: ------、10,000 ～ -99,999 km

► 0 km を超えると "-" を表示します。

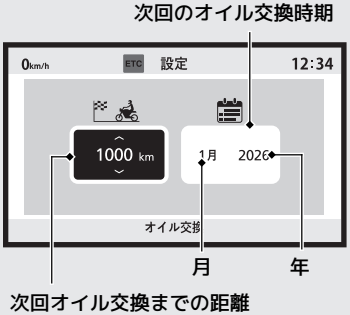
日付:

月: ---、1 月 ～ 12 月

年: ----、2020 ～ 2099

次回エンジンオイル交換時期の設定

❶ セレクトスイッチの ▶ または ◀ で"距離"、"月"または "年"を選択します。



❷ 選択した項目でセレクトスイッチの ▲ または ▼ で値を変更します。

- ▶ "距離" の設定中にセレクトスイッチの ▲ を押し続けると、1,000 の位ごとに数値が上昇します。
- ▶ 距離の設定範囲：------、100 ～ 10,000 km
  初期設定：------
- ▶ 月の設定範囲：---、 1 月 ～ 12 月
  初期設定：---
- ▶ 年の設定範囲：----、 2020 ～ 2099
  初期設定：----
- ▶ 距離と年月を初期設定に設定した場合、メンテナンス情報（P.68）は表示されません。

❸ セレクトスイッチの ◀ を押して前のメニューに戻ることで設定を完了します。

次ページに続く

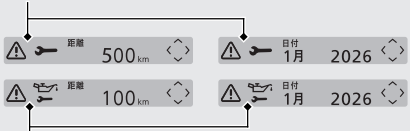
メーター 前ページの続き

以下の時期に達したとき、メンテナンスポップアップ情報表示が通常画面に表示されます。

P.68

- 次回の定期点検時期の 500 km 前に達したとき
- 次回のエンジンオイル交換時期の 100 km 前に達したとき
- 各点検時期の1 か月前に達したとき

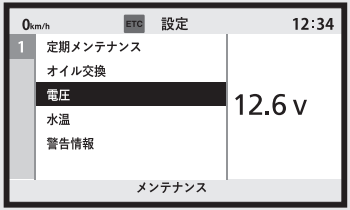
定期点検ポップアップ情報表示



オイル交換ポップアップ情報表示

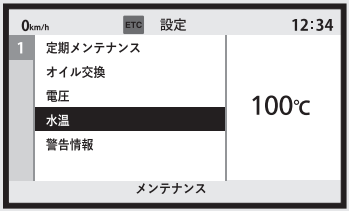
電圧

バッテリーの電圧を表示します。



水温

冷却水の水温を表示します。



表示範囲： 35 ～ 132 ℃

- 34 ℃ 以下： "---" を表示
- 122 ～ 131 ℃：
  - 水温警告灯と警告灯が点灯
    ➡P.22 ➡P.69
  - 水温表示が点滅
- 132 ℃ 以上：
  - 水温警告灯と警告灯が点灯
    ➡P.22 ➡P.69
  - 水温表示が 132 ℃ で点滅

水温が低い場合でも、エンジン回転数が上がると冷却ファンが回る場合がありますが、異常ではありません。

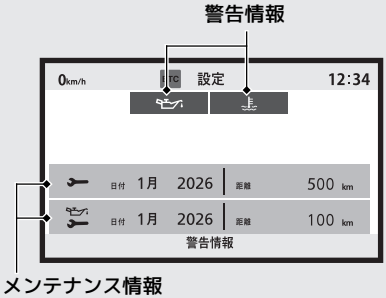
上記の場合をのぞいて、水温が"---"で点滅した場合は ➡P.164

メーター 前ページの続き

警告情報

警告情報やメンテナンス情報を表示します。

▶ 車両に警告情報がある場合は、速やかに Honda 販売店で点検を受けてください。



装備

「装備」は表示されますが選択できません。



QS 初期化

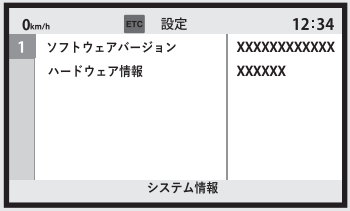
CB1000F SE

「QS 初期化」は表示されますが選択できません。



システム情報

ソフトウェアバージョンとハードウェア情報が表示されます。



次ページに続く

ポップアップ情報表示

以下の場合、情報表示エリアにポップアップ情報が表示されます。

- メンテナンス情報：
  車両の点検時期が近づいたとき
- 警告情報：
  車両に警告情報があるとき
- ライドモード：
  ライドモードを変更したとき

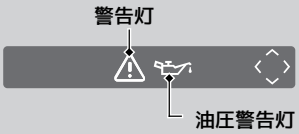
車両情報が複数ある場合は、ポップアップ情報が交互に表示されます。

ポップアップ情報が表示されているときにセレクトスイッチの ▲ ▼ ◀ ▶ を押すと、ポップアップ情報を非表示にできます。

メンテナンス情報

表示	説明	対処
	定期点検の時期が近づいたときに表示される。	Honda 販売店で点検を受けてください。
	エンジンオイル交換の時期が近づいたときに表示される。	エンジンオイルを交換してください。

警告情報

表示	説明	対処
	エンジンオイルの油圧が低下したときに表示される。	“油圧警告灯”をご確認ください。 P.155
	冷却水が高温になったときに表示される。	“オーバーヒートしたとき（水温警告と警告灯が点灯）”をご確認ください。 P.154

ライドモード

表示	説明
STANDARD	ライドモードを変更したときに変更後のモードが表示される　ライドモード： P.93

警告灯／表示灯

警告灯／表示灯が点灯すべきときに点灯しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。
ディスプレイに表示されるインジケーターについては、「メーター」を参照してください。 P.22
P.69



⇦方向指示器表示灯

⇨方向指示器表示灯

PGM-FI 警告灯
メインスイッチを|（On）にすると点灯し、数秒後に消灯
走行中またはアイドリング中に点灯または点滅したときは P.156

Honda SMART Key 警告灯
車両と Honda SMART Key の照合が完了すると点灯し、メインスイッチの操作が可能になる
メインスイッチを|（On）にすると数秒後に消灯
Honda SMART Key 警告灯が点滅したときは P.159

トルクコントロール警告灯

- メインスイッチを｜（On）にすると点灯し、速度が約 5 km/h に達すると消灯
  同時に、トルクコントロールが作動可能な状態になる
- トルクコントロール作動中に点滅

走行中に点灯したときは P.158



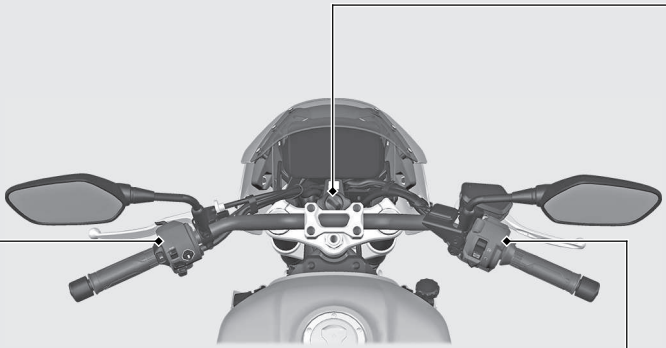
トルクコントロール OFF 警告灯
トルクコントロールを停止状態（OFF）にすると点灯

ニュートラル表示灯
トランスミッションがニュートラルの位置にあるときに点灯

ABS 警告灯
メインスイッチを｜（On）にすると点灯し、速度が約 10 km/h に達すると消灯

走行中に点灯したときは P.157

スイッチ



左ハンドルスイッチ P.74

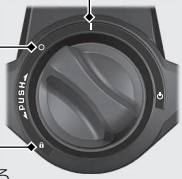
右ハンドルスイッチ P.75

⏻メインスイッチ
電気回路の ON ／ OFF、ハンドルロックに使用
メインスイッチを解錠するには P.83

❙(On)
始動・走行

○(Off)
停止

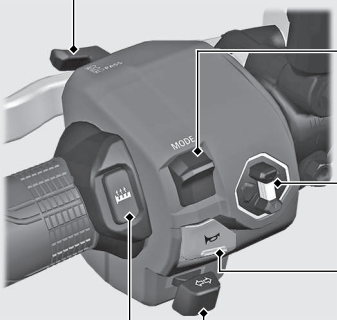
(Lock)
ハンドルロックができる



次ページに続く

スイッチ 前ページの続き

左ハンドルスイッチ



ヘッドライト（前照灯）上下切り換えスイッチ／パッシングライトスイッチ（追い越し合図）

- ≣D（HI）：ヘッドライトが上向き
- ≣D（LO）：ヘッドライトが下向き
- ≣D**PASS**：ヘッドライトが下向きのときのみ作動

MODE スイッチ

ライドモードの選択に使用します。 P.93

セレクトスイッチ

メーターと Honda RoadSync の操作に使用します。 P.88

ホーンスイッチ

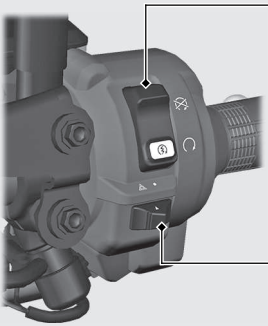
ウィンカー（方向指示器）スイッチ

▶ 解除はスイッチを押して行います。

CB1000F SE

ハンドルグリップヒータースイッチ P.110

右ハンドルスイッチ

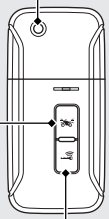


エンジンストップスイッチ／
スタータースイッチ
通常は、（Run）位置にしておく
▶ 非常時に（Stop）位置にすると、
エンジンを停止できます。

ハザード（非常駐車灯）スイッチ
：ハザードが作動
：ハザードが停止

次ページに続く

スイッチ 前ページの続き



解除ボタン

メカニカルキーを取り出す、または折りたたむときに使用

メカニカルキーは給油とシートを取り外すときに使用します。

キーを折りたたむときは、指を挟まないように注意してください。

取り出しかた

解除ボタンを押す。

▶ メカニカルキーが完全に取り出せていることを確認してください。

折りたたみかた

解除ボタンを押してメカニカルキーをたたみ、収納する。

アンサーバックスイッチ

アンサーバックシステムの操作に使用

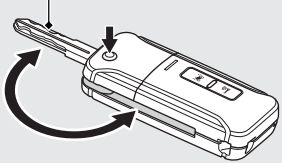
アンサーバックシステム

P.86

ON / OFF スイッチ

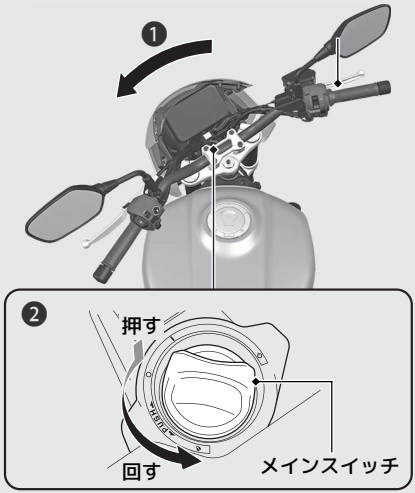
Honda SMART Key システムの作動可能状態と作動停止状態の切り換えおよび、作動状態の確認に使用します。 P.82

メカニカルキー



ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。
U 字ロックなどの使用も推奨します。



かけかた

❶ ハンドルを左にいっぱいにきる。
❷ メインスイッチを押し込みながら、(Lock) の位置まで回す。
- ► メインスイッチを解錠するには P.83
- ► ロックがかかりにくい場合は、ハンドルを左右に軽く動かしてください。

❸ メインスイッチを施錠する。 P.84

外しかた

メインスイッチを押し込みながら、(Off) の位置まで回す。
► メインスイッチを解錠するには P.83

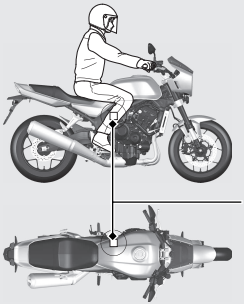
Honda SMART Key システム

Honda SMART Key システムは、車両と Honda SMART Key の間で相互認証を行い、登録された Honda SMART Key であることを確認することで、キーシリンダーにキーを差し込むことなくメインスイッチの操作が行えるシステムです。

発信機位置と作動範囲

発信機位置

Honda SMART Key システムは、車両と Honda SMART Key の間で電波による通信を行っています。



⚠ 注意

車両の発信機から Honda SMART Key システムの電波が発信されます。

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与える可能性があります。
発信機から 22 cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を近づけないようにしてください。

その他の医療用電子機器を使用している方は、医師や医療用電子機器製造業者に影響を確認してからご使用ください。

作動範囲

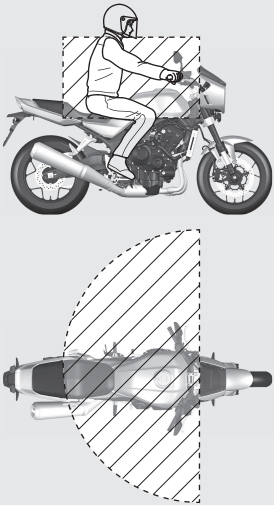
作動範囲はメインスイッチの解錠/施錠の状態により変化します。

Honda SMART Key システムは、微弱電波を使用しているため、使用環境により作動範囲が広くなったり、狭くなったりすることがあります。また、以下の使用環境では正常に作動しないことがあります。

- Honda SMART Key の電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ラジオ局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
- Honda SMART Key と一緒にノートパソコン、ラジオ、携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- Honda SMART Key が金属製のものに接したり、覆われているとき

メインスイッチ解錠時の作動範囲

イラストの斜線範囲内でシステムが作動可能です。

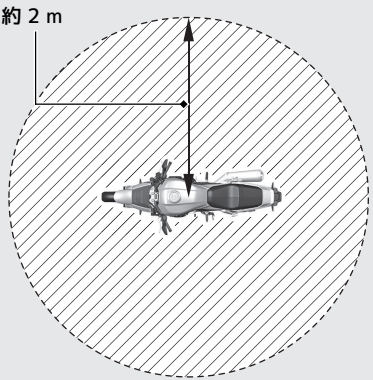


次ページに続く

Honda SMART Key システム 前ページの続き

メインスイッチ施錠時の作動範囲

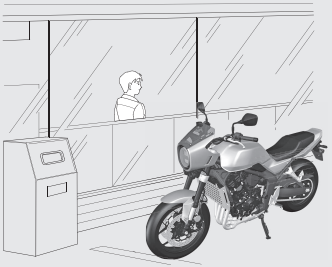
イラストの斜線範囲内でシステムが作動可能です。



ガラス越しや壁越しなどの隔てた場所でもHonda SMART Key が車の作動範囲内にあると、他の人でもメインスイッチの解錠およびエンジン始動が可能です。

車から離れていても Honda SMART Key の作動範囲内の場合は、Honda SMART Key システムを作動停止状態にしてください。

Honda SMART Key システムを作動停止状態に切り換えるときは ➡P.82



Honda SMART Key システム作動範囲内にHonda SMART Key を携帯している人がいるときは、携帯していない他の人でも以下の操作が可能になります。

- エンジンの始動
- メインスイッチの解錠
- ハンドルロックの解除

乗車時や車から離れるときは、必ず運転者がHonda SMART Key を携帯してください。

Honda SMART Key をシートの下に収納しないでください。

メインスイッチを▌（On）の位置にしておくと、Honda SMART Key を携帯していない他の人でもエンジン始動が可能です。

車から離れるときはハンドルロックをかけメインスイッチを施錠してください。➡P.84

Honda SMART Key 警告灯が消灯し、全ての方向指示器が 1 回点滅します。

Honda SMART Key システム 前ページの続き

Honda SMART Key システムの作動状態の切り換え

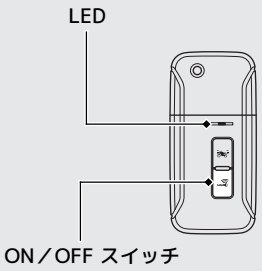
作動可能状態と作動停止状態の切り換え

ON／OFF スイッチを LED の色が変わるまで押し続ける。

作動状態の確認

ON／OFF スイッチを軽く押すと LED が点滅し作動状態が確認できる。

緑色：　Honda SMART Key（作動可能状態）システムの認証ができる
赤色：　Honda SMART Key（作動停止状態）システムの認証ができない



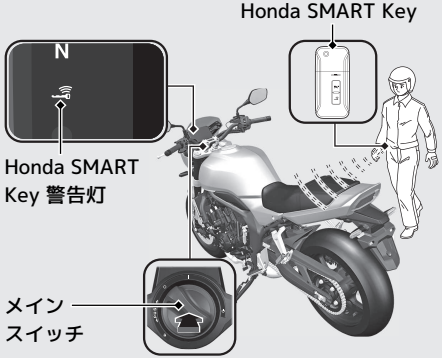
メインスイッチの解錠/施錠

メインスイッチの解錠

1. Honda SMART Key システムが作動可能状態であることを確認する。P.82
2. メインスイッチを押す。
   - ▶ 正常に認証が行われると、メインスイッチが解錠され、Honda SMART Key 警告灯が点灯します。
3. Honda SMART Key 警告灯が点灯している間に、メインスイッチを（On）にする。
   - ▶ メインスイッチを押した後、約 20 秒以内にメインスイッチを（On）にしなかった場合、Honda SMART Key 警告灯が消灯し、方向指示器が 1 回点滅してから、メインスイッチが施錠されます。

Honda SMART Key システムが正しく作動しないとき P.165

Honda SMART Key を携帯していない人がメインスイッチを無理に回そうとした場合、メインスイッチは空回りします。
メインスイッチが施錠した位置と違うときは、施錠した位置（（Off）、または（Lock））に戻してください。



次ページに続く

Honda SMART Key システム 前ページの続き

メインスイッチの施錠

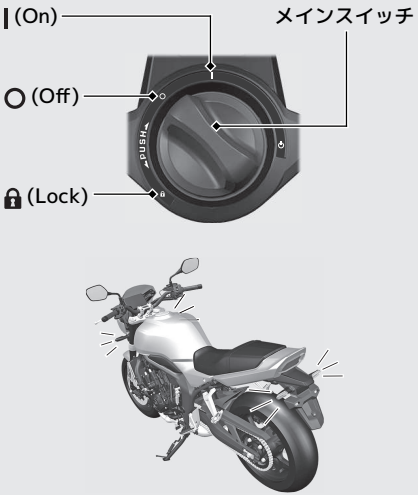
❶ メインスイッチを○（Off）、または🔒（Lock）の位置にする。

❷ 以下のいずれかの方法でメインスイッチを施錠する。

- Honda SMART Key を携帯して作動範囲から離れる。➡P.79
- メインスイッチを押す。
- メインスイッチを○（Off）、または🔒（Lock）の位置にしてから、約 20 秒間待つ。
- Honda SMART Key システムを作動停止状態にする。➡P.82

❸ Honda SMART Key 警告灯が消灯し、方向指示器が 1 回点滅したことを確認する。
これはメインスイッチが施錠されたことを示します。

Honda SMART Key システムが正しく作動しないとき ➡P.165

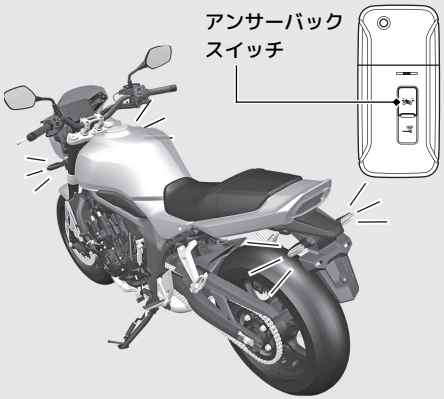


車から離れるときは、必ずメインスイッチが○（Off）または🔒（Lock）の位置にあることを確認してください。
メインスイッチを○（Off）の位置で施錠すると、ハンドルロックをかけられません。ハンドルロックをかけるにはメインスイッチを解錠してください。

アンサーバックシステム

アンサーバックシステムは車の位置を見つけるための機能です。
メインスイッチが（Off）または（Lock）のときに、Honda SMART Key のアンサーバックスイッチを押すと、方向指示器が点滅することで車の位置を知らせます。

アンサーバックシステムは微弱な電波を使用しています。植え込み型心臓ペースメーカーなどの医療用電子機器に影響を与える可能性があります。



使いかた

Honda SMART Key のアンサーバックスイッチを押す。

▶ メインスイッチが（On）のときはアンサーバックシステムは作動しません。

メインスイッチが（Off）または（Lock）の位置で 10 日以上経過すると、アンサーバックシステムは作動停止状態になります。

アンサーバックシステムが作動可能な期間にアンサーバックスイッチを押して車両が信号を受信すると、アンサーバックシステムが作動停止状態になるまでの期間が、その時点から 10 日間延長されます。

システムの作動停止状態を解除するには、メインスイッチを一度（On）にしてください。

▶ メインスイッチを解錠するには P.83

アドバイス

車のバッテリーが弱っているときはアンサーバックシステムが作動しないことがあります。

Honda RoadSync

スマートフォンを車両と *Bluetooth®* を介して *Bluetooth®* ヘッドセットに接続すると、ヘッドセットからの音声入力でスマートフォンを操作できます。 ハンドルのスイッチを操作してシステムを使用することもできます。

▶ このシステムを使用するには、事前にスマートフォンに専用アプリケーションをインストールし、スマートフォンを車両およびヘッドセットとペアリングする必要があります。

専用アプリケーションの利用規約およびインストール/操作方法については、次の URL を参照してください。

https://global.honda/voice-control-system/

通信範囲：
車両から半径 1 メートル以内

サポートされている *Bluetooth®* バージョン/プロファイル

Bluetooth® バージョン	Bluetooth 4.2 以上
Bluetooth® プロファイル	GATT (Generic Attribute Profile)
	HOGP (HID over GATT Profile)

Bluetooth® ワイヤレステクノロジー

Bluetooth® ワードマークとロゴは、Bluetooth SIG,Inc. の所有であり、本田技研工業株式会社のマーク使用は許可を得ています。その他のトレードマークおよびトレードネームは各所有者のものです。

● この機能の使用に必要なネットワーク通信および通信機器の費用は、ユーザー自身が負担するものとします。
● 一度に 2 台以上のスマートフォンをペアリングすることはできません。
● 一部のスマートフォンはこの機能と互換性がない場合があります。
● Honda は、スマートフォンの使用による損害やトラブルについては、一切責任を負いません。
● スマートフォンを車両に接続できない場合は、スマートフォンの保管場所を変更してください。

システム自体には特定の制限があります。
道路、標識、信号などには特に注意して、システムが提供するメーターの音声ガイダンスと情報を確認する必要があります。標識、信号などがない場合でも細心の注意を払って走行してください。 常にあなた自身の最善の判断で使用し、乗車中は交通法規に従ってください。

⚠ 警告

走行中に Honda RoadSync を使用すると、道路から注意をそらし、重傷を負ったり死亡したりする可能性のある事故を引き起こす可能性があります。

・ 交通量の多い交差点を横断するときなどは特に注意してください。
・ 道路、標識、信号には、特に注意してください。
・ 乗車中は交通法規に従ってください。

次ページに続く

Honda RoadSync 前ページの続き

Honda RoadSync の制限

Honda RoadSync 機能の提供に不可欠なオペレーティングシステム、ハードウェア、ソフトウェア、およびその他のテクノロジーの変更、ならびに新規または改訂された政府規制により、Honda RoadSync の機能およびサービスが減少または停止する場合があります。

Honda は Honda RoadSync 機能の提供に不可欠なオペレーティングシステム、ハードウェア、ソフトウェア、およびその他のテクノロジーの仕様や機能に対していかなる保証もできません。

Honda は Honda RoadSync をご利用いただいたことにより生じた損害について一切の責任を負いません。

*Bluetooth®*を介したスマートフォンのペアリング

安全な場所に停車して *Bluetooth®* ペアリングを行ってください。

一度に接続できるスマートフォンは１台までです。
すでに他のスマートフォンが接続されている場合、*Bluetooth®* のペアリング情報をリセットしてください。➡P.58

❶ 設定モードの「BLUETOOTH ペアリングをリセット」を選択します。 ➡P.39 ➡P.58

❷ セレクトスイッチの ▶ を押し続けて「はい」を選択します。 ➡P.58

► セレクトスイッチの ◀ を押して「いいえ」を選択すると、ペアリングを行わず前のメニューに戻ります。



❸ システムがペアリング待機状態になり、「ペアリング中...」が表示されます。
2分以内にスマートフォン側のアプリケーションでペアリング操作を行ってください。



► このとき、通常画面では *Bluetooth®* インジケーターが点滅します。



***Bluetooth®* インジケーター**

► アプリケーションの操作については、アプリケーションの指示に従ってください。

次ページに続く

Honda RoadSync 前ページの続き

❹ ペアリングが完了すると、「完了」が表示されます。

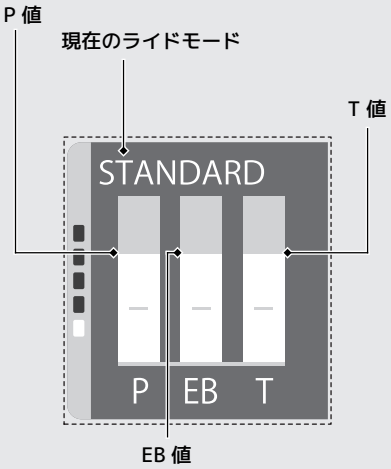
▶ ペアリングが完了しないまま 2 分経過した場合も「完了」が表示されます。
ステータスアイコンを見て、ペアリングが完了していることを確認してください。 ➡P.22
ペアリングが完了していない場合、❶ に戻って手順を繰り返してください。



ライドモード

ライドモードの切り換えができます。
ライドモードは以下の内容で構成されています。

P：エンジン出力レベル
EB：エンジンブレーキレベル
T：トルクコントロールレベル



次ページに続く

ライドモード 前ページの続き

ライドモードは STANDARD、SPORT、RAIN、USER1、USER2 の 5 つのモードが選択できます。

STANDARD、SPORT および RAIN

- ▶ STANDARD：オールラウンドにさまざまなシチュエーションで楽しめる標準的なモードです。
- ▶ SPORT：エンジンレスポンスが良く、スポーツライディングに適したモードです。
- ▶ RAIN：雨天時や滑りやすい路面の走行時に適したモードです。

それぞれの値（P、EB、T）の変更はできません。

USER1、USER2

それぞれの値（P、EB、T）の変更ができます。

初期設定

	P 値	EB 値	T 値
STANDARD	2	2	2
SPORT	3	1	1
RAIN	1	2	3
USER1	2*	2*	2*
USER2	2*	2*	2*

Notes:

*：レベルの変更ができます。

P 値（エンジン出力レベル）

P 値は 3 段階の設定があります。

設定範囲：1 ～ 3

▶ 1 は、最も低出力になります。

▶ 3 は、最も高出力になります。

EB 値（エンジンブレーキレベル）

EB 値は 3 段階の設定があります。

設定範囲：1 ～ 3

▶ 1 は、エンジンブレーキの効果が弱くなります。

▶ 3 は、エンジンブレーキの効果が強くなります。

T 値（トルクコントロールレベル）

T 値は 3 段階の設定があり、0にすることもできます。

設定範囲：1 ～ 3 または 0

▶ 1 は、トルクコントロールレベルが最小になります。

▶ 3 は、トルクコントロールレベルが最大になります。

▶ 0 はトルクコントロールが機能しません。

▶ T 値を 0にした状態でイグニッションスイッチを ○ (Off) にすると、次に | (On) にしたとき、自動的に 2 にセットされます。

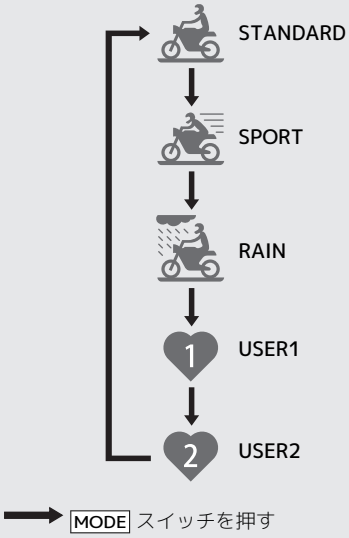
次ページに続く

ライドモード 前ページの続き

ライドモードの切り換えかた

1. 車を停止する。
2. MODE スイッチを押す。

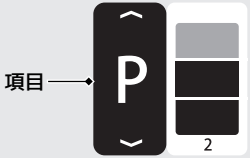




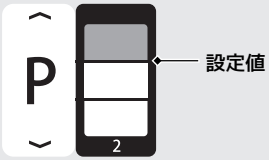
ライドモードの設定

ライドモードの USER1 と USER2 では、P 値、EB 値および T 値の変更ができます。

①車を停止する。
②ライドモードで USER1 または USER2 を選択する。 P.96
③選択エリアに設定画面が表示されるまで、MODE ボタンを押し続ける。
④セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して項目を選択し、セレクトスイッチの ▶ を押す。



⑤セレクトスイッチの ▲ または ▼ を押して値を変更する。
▶ T 値を設定中にセレクトスイッチの ▲ を押し続けると、トルクコントロールを OFF にすることができます。

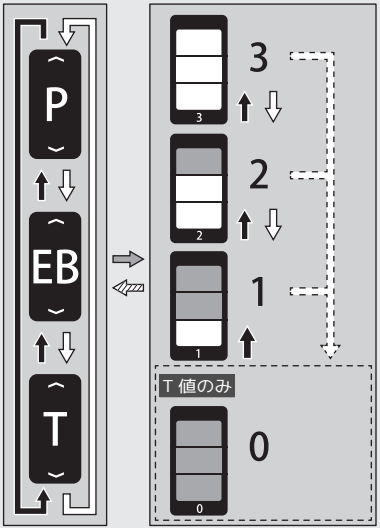


⑥通常表示に戻るまで、MODE ボタンを押し続ける。

ライドモードの設定は各種項目の設定でも変更できます。
ライドモード： P.44

次ページに続く

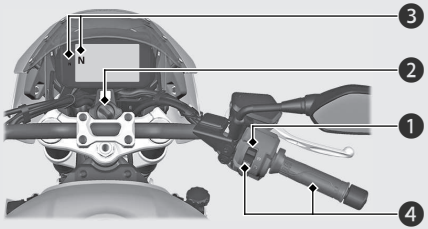
ライドモード 前ページの続き



セレクトスイッチの ▶ を押す
セレクトスイッチの ◀ を押す
セレクトスイッチの ▲ を押す
セレクトスイッチの ▼ を押す
セレクトスイッチの ▲ を押し続ける

エンジン始動

始動するには、エンジン・冷却水の温度にかかわらず、次の手順で行ってください。
この車は Honda SMART Key システムを装備しています。乗車中は、Honda SMART Key を常に携帯してください。



アドバイス

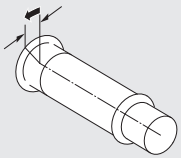
- スタータースイッチを押して 5 秒以内でエンジンがかからないときは、一度メインスイッチを〇(Off)にしてください。その後バッテリー電圧回復のため 10 秒ほど経ってからやり直してください。
- 無用な空ぶかしや長時間のアイドリングはエンジンやマフラー、触媒装置に悪影響を与えます。
- 万一転倒した場合は、一旦メインスイッチを〇(Off)にしてください。再度走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。

次ページに続く

エンジン始動 前ページの続き

❶ エンジンストップスイッチが ⟳ (Run) の位置にあるか確認する。
❷ メインスイッチを | (On) に回す。
▶ メインスイッチを解錠するには ➡P.83
❸ ギアをニュートラルにする。（表示灯点灯）
▶ ギアが入った状態では始動しません。ただし、サイドスタンドが格納されている状態でクラッチレバーを握れば始動します。
❹ スロットルグリップを閉じたまま、スタータースイッチを押す。
▶ もし、エンジンがかからない場合は、スロットルグリップをわずかに（遊びを除いて 3 mm 程度）回しながらスタータースイッチを押してください。

遊びを除いて 3 mm 程度



エンジンがかからないときは

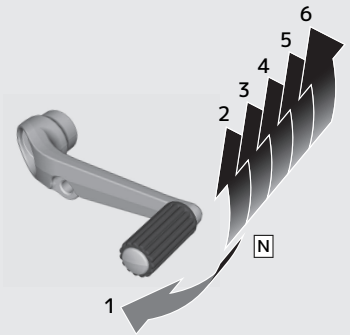
次の方法を試してください。

① スロットルグリップを全開にし、スタータースイッチを 5 秒間押す。
▶ この時点では、エンジンは始動しません。（スロットルグリップが全開の場合は、スターターボタンを押してもエンジンは始動しない仕様です。）
5 秒後にスロットルグリップとスタータースイッチをはなして、手順 ② へ進んでください。
② 通常手順（❶ ～ ❹）でエンジンをかける。
③ エンジンがかかり、エンジン回転が安定しない場合はスロットルグリップを少し開ける。
④ エンジンがかからないときは一度メインスイッチを ○ (Off) にして 10 秒間待ってから、① ② の手順を繰り返す。

それでも始動できないときは ➡P.153

ギアチェンジ

この車のトランスミッションは、下 1 速、上 5 速シフトの 6 速リターン式です。速度に応じてギアを切り換えることが必要です。



走行前に、サイドスタンドが完全に納まっているか確認してください。
サイドスタンドを出したままギアチェンジを行うと、エンジンが停止します。

速度範囲

1 速 0 - 80 km/h
2 速 20 - 110 km/h
3 速 30 - 135 km/h
4 速 50 - 165 km/h
5 速 60 - 200 km/h
6 速 65 km/h 以上

シフトダウンについて

追い越しなど、強力な加速が必要なときはシフトダウンをします。高い速度でのシフトダウンは、尻振りなどの原因や、走行安定性を損なうほか、エンジンやトランスミッションに悪影響を与えます。次の速度内で行ってください。

シフトダウン可能限界速度

6 速→5 速 195 km/h 以下
5 速→4 速 160 km/h 以下
4 速→3 速 130 km/h 以下
3 速→2 速 105 km/h 以下
2 速→1 速 75 km/h 以下

次ページに続く

ギアチェンジ 前ページの続き

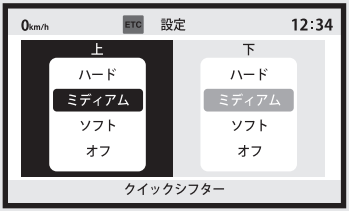
クイックシフター

CB1000F SE

クイックシフターシステムは、クラッチおよびスロットル操作を行わずにシフトアップおよびシフトダウンをすることができます。

- ▶ スロットルを閉じた状態でのシフトアップはできません。
- ▶ クイックシフターシステムは、シフトアップにおいてはエンジン回転数が 1,800 rpm 以上、シフトダウンにおいてはアイドリング回転以上で作動します。
- ▶ クラッチを操作したときは、クイックシフターは作動しません。

- ギアポジション表示が"-"になったとき、クイックシフターは作動しません。
- クイックシフターが正常に動作しないときでも、クラッチ操作によるシフトチェンジが可能です。
- クイックシフター作動におけるシフトペダル荷重(重さ)調整と、クイックシフターのオンとオフの切り換えが可能です。



- PGM-FI 警告灯が点灯、またはギアポジション表示の"-"が点滅した場合は、クイックシフターは作動しません。
  このようなときは直ちに Honda 販売店で点検を受けてください。

クイックシフターシステム設定 P.45

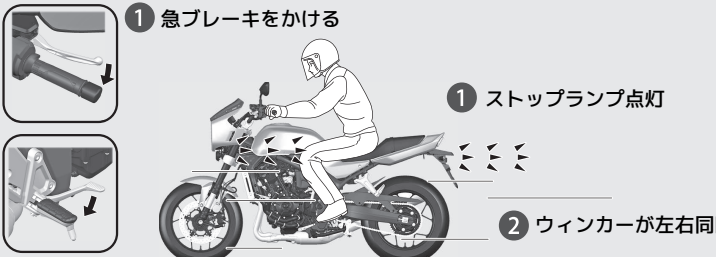
エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことをウィンカーが左右同時自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。
50 km/h 以上で走行しているときにシステムが急ブレーキを検知すると作動します。

エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキレバーおよびペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

作動の仕組み

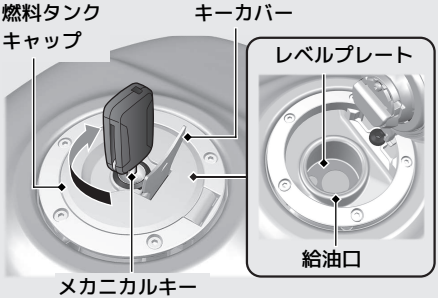


次ページに続く

エマージェンシーストップシグナル 前ページの続き

- ▶ エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。
- ▶ ハザードスイッチが ON のときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。
- ▶ ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

燃料補給



燃料がにじみ出ることがあるので、レベルプレート以上入れないでください。
使用燃料：無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：16 ℓ

燃料についての注意 P.9

燃料タンクキャップの開けかた
キーカバーを開け、メカニカルキーを差し込み右に回して、燃料タンクキャップを開ける。

燃料タンクキャップの閉じかた
1. 燃料タンクキャップを手で確実に押してロックする。
2. メカニカルキーを抜き、キーカバーを閉じる。
   ▶ 燃料タンクキャップがロックされないと、キーは抜けません。

⚠ 警告

ガソリンは燃えやすいため、ヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

燃料補給およびガソリンの取り扱い P.9

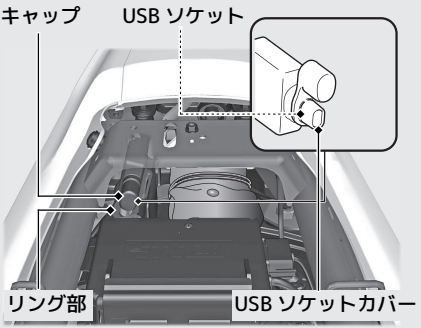
USB ソケット

USB ソケットは、シートの下にあります。
P.130
充電する機器についてはご自身の責任でお使いください。

キャップを開けてお使いください。
USB Type-C コネクターが使用できます。
定格 15 W (5 V、3.0 A)まで使用できます。
► USB ソケットは充電専用です。

USB 機器の接続のしかた

1. シートを取り外す。 P.130
2. USB ソケットのキャップを取り外す。
   ► キャップの紛失を防ぐため、キャップのリング部を USB ソケットカバーに通してから、USB ケーブルを USB ソケットに接続してください。
3. 接続する機器の USB ケーブルを USB ソケットに接続する。



► バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でお使いください。
► ソケットへの異物侵入を防ぐために、使用しないときはキャップを取り付けてください。

アドバイス

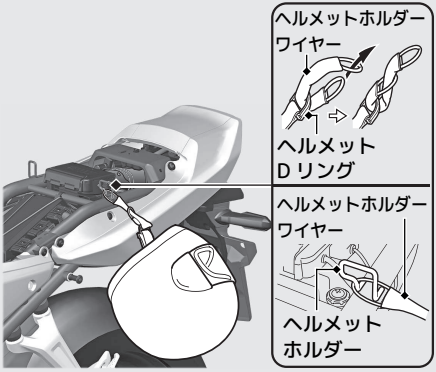
- 発熱する機器や定格以上の機器を使用しないでください。
- USB ソケットを損傷する可能性があるので、USB ソケットが濡れた状態、洗車中、またはその他の濡れた状態で使用しないでください。
- 機器のケーブルが挟まれたり絡まったりしないようにしてください。

その他装備の使いかた

ヘルメットホルダー

ヘルメットホルダーはシートの下にあります。ヘルメットホルダーワイヤーは携帯工具に入っています。

▶ ヘルメットホルダーは駐車時のみお使いください。



シートの取り外しかた P.130

⚠ 警告

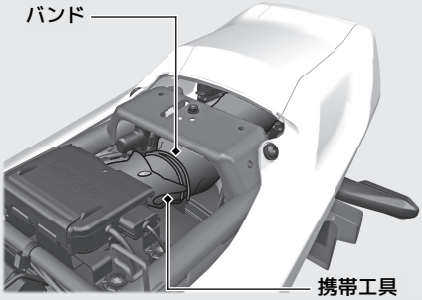
ヘルメットホルダーにヘルメットをつけたまま走行しないでください。

走行の妨げになり、重傷を負ったり死亡したりする事故が発生することがあります。

携帯工具

携帯工具はシートの下にあります。

► 携帯工具は図のように格納し、バンドでしっかりと固定してください。

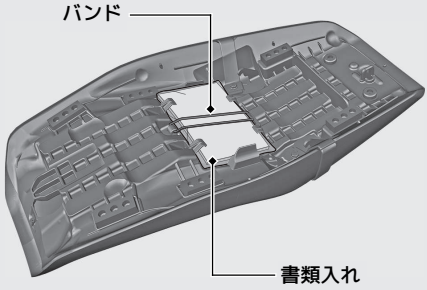


シートの取り外しかた P.130

書類入れ

書類入れは、シート裏側にあります。

► 書類入れは図のように収納し、バンドでしっかりと固定してください。



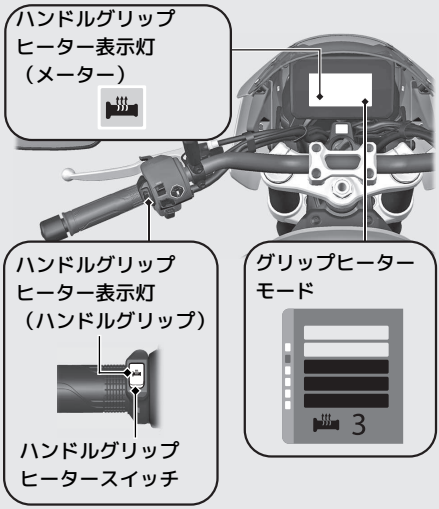
シートの取り外しかた P.130

その他装備の使いかた 前ページの続き

ハンドルグリップヒーター

CB1000F SE

この車は、運転する際に手元を暖めるハンドルグリップヒーターを装備しています。ハンドルグリップヒーターを使用する際は、手袋を着用してください。



ハンドルグリップヒーター表示灯（メーター）：
ハンドルグリップヒーター作動時に点灯する。

ハンドルグリップヒーター表示灯（ハンドルグリップ）：
ハンドルグリップヒーター作動時に点灯する。ハンドルグリップヒーターを ON にしたとき、またはヒーターレベルを変更したときに、選択しているヒーターレベルを表示灯の点滅回数で表示する。（例えばヒーターレベル 5 を選択した場合、表示灯は 5 回の点滅を 7 回繰り返します。）

上記の場合をのぞいてハンドルグリップヒーター表示灯が点滅したときは P.164

ヒーターレベル：
ハンドルグリップヒースイッチを操作すると、選択されたヒーターレベルがグリップヒーターモードまたはハンドルグリップヒーター表示灯（ハンドルグリップ）に表示されます。

グリップヒーターモード P.35

その他装備の使いかた 前ページの続き

ハンドルグリップヒーターの使いかた

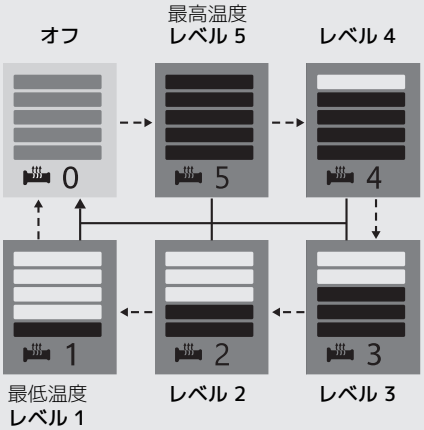
1. エンジンを始動する。
2. ハンドルグリップヒータースイッチを押し、ハンドルグリップヒーターを ON にする。
3. ハンドルグリップヒータースイッチを押し、ヒーターレベルを選択する。
   - ▶ ハンドルグリップヒーターの温度は外気温によって変化するので、暖かい日の高温度設定はさけてください。
   - ▶ 走行中は、ハンドルグリップヒータースイッチの操作を行わないでください。
   - ▶ ヒーターレベルは、ハンドルグリップヒーター表示灯（ハンドルグリップ）またはグリップヒーターモードで確認できます。
4. OFF にするには、グリップヒーター表示灯が消えるまでハンドルグリップヒータースイッチを押す。
   - ▶ ハンドルグリップヒータースイッチを押し続けることでも OFF にできます。

アイドリング状態での長時間のご使用はさけてください。バッテリーあがりの原因となります。

メインスイッチを ○（Off）にした場合、選択しているヒーターレベルは保持されます。

- ▶ ヒーターレベルの変更操作後、5 秒以内にメインスイッチを ○（Off）にした場合、ヒーターレベルは保持されません。

グリップヒーターモードでのヒーターレベルの確認：



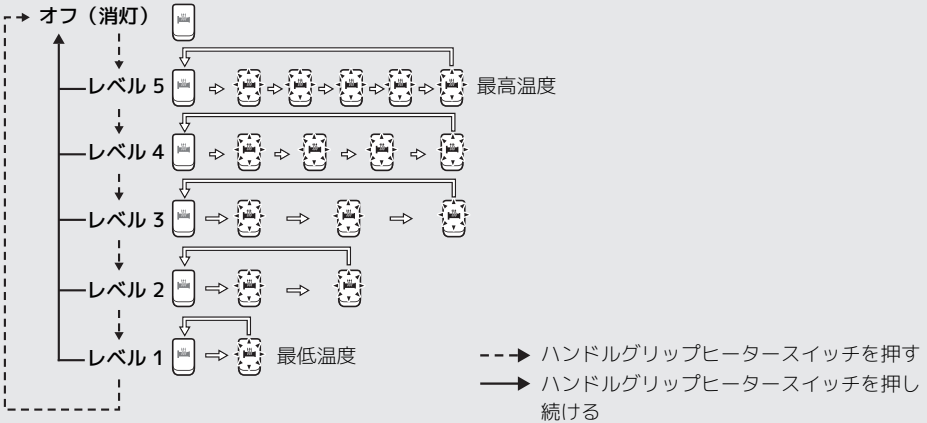
- - → ハンドルグリップヒータースイッチを押す
——→ ハンドルグリップヒータースイッチを押し続ける

次ページに続く

その他装備の使いかた 前ページの続き

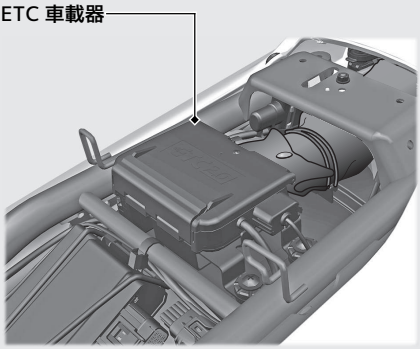
ハンドルグリップヒーター表示灯（ハンドルグリップ）でのヒーターレベルの確認：

ハンドルグリップヒーター表示灯（ハンドルグリップ）はヒーターレベルに応じて 7 回点滅を繰り返した後点灯します。

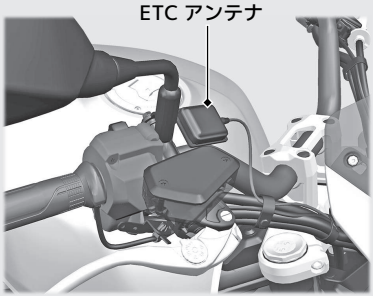


ETC 車載器／ETC 表示灯／ETC アンテナ

ETC 車載器の取り扱いについては、別冊の ETC 車載器取扱説明書をお読みください。







シートの取り外しかた P.130

メンテナンス

メンテナンスを行う前に必ず「メンテナンスの基礎知識」をお読みください。
また、サービスデータについては「スペック」を参照ください。

メンテナンスの基礎知識 ..... P. 117
主要部品の脱着方法 ..... P. 128
クリップ ..... P. 128
左サイドカバー ..... P. 129
シート ..... P. 130
バッテリー ..... P. 131
エンジンオイル ..... P. 133
冷却水 ..... P. 135
ブレーキ ..... P. 137
ドライブチェーン ..... P. 139
クラッチ ..... P. 140
スロットル ..... P. 143
その他の調整 ..... P. 144
ブレーキレバーの距離調整 ..... P. 144
フロントサスペンションの調整 ..... P. 145
リアサスペンションの調整 ..... P. 148
その他の交換 ..... P. 150
Honda SMART Key の電池交換 ..... P. 150

メンテナンスの基礎知識

メンテナンスの重要性

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行っていただく日常点検と、1年ごと（12か月ごと）、2年ごと（24か月ごと）の定期点検整備が義務付けられています。安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

⚠ 警告

誤った点検整備や、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- 異状箇所は乗車前に修理してください。

安全なメンテナンスのために

メンテナンスにあたっては、次のことに注意してください。

- メインスイッチを○（Off）にしてエンジンを停止し、Honda SMART Key システムが作動停止状態で行う ➡ P. 82
- 平坦地で足場のしっかりとした場所で行う
- エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分はヤケドのおそれがあるので、冷えるまで触れない
- エンジンを始動して作業をする場合は、換気を十分に行う

日常点検

安全快適にご使用いただくために法令に従って、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。
点検時期の目安としては、長距離走行や洗車時、給油時などに実施し、その結果をメンテナンスレコードに記入してください。
異音や異状を感じたときは、直ちに Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

日常点検項目

この車には下記の日常点検項目が適用されます。

- **ブレーキ**
  - レバーの遊び（油圧式）
  - ペダルの遊び（油圧式）
  - ブレーキの効き具合
  - ブレーキ液の量
- **タイヤ**
  - 空気圧
  - 亀裂、損傷
  - 異状な摩耗
  - 溝の深さ
- **エンジン**
  - 冷却水の量
  - オイルの量
  - かかり具合、異音
  - 低速、加速の状態
- **灯火装置および方向指示器**
- **運行において異状が認められた箇所**
- **ドライブチェーンの緩み（Honda 指定）**

定期点検

安全快適にお車をご使用いただくために、定期点検を必ず実施してください。

また、これらの他にも使い始めてから 1 か月目（または、1,000 km 時）に行う点検、Honda が指定する点検整備項目もあります。

道路運送車両法で定められた点検

道路運送車両法で定められた点検には、以下の種類があります。

- 日常点検
- 1 年ごと（12 か月ごと）に行う点検
- 2 年ごと（24 か月ごと）に行う点検

小型二輪車［250 cm^3（cc）を超えるもの］は、1 回目を登録日から 3 年後に、2 回目以降は 2 年ごとに、国で定める継続検査が必要です。

ご自身で点検を実施する場合

安全のため、ご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda 販売店にご相談ください。
点検結果は、メンテナンスノートの定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

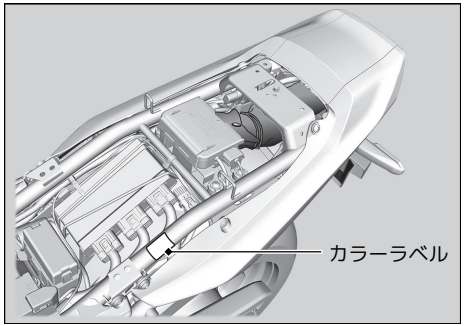
1 か月目点検について

新車から 1 か月目（または、1,000 km 時）は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取り扱いいたします。お買いあげの Honda 販売店で行ってください。他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。詳細については、メンテナンスノートをご覧ください。

交換部品について

整備の際は、Honda 純正部品を使用してください。色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

カラーラベルは、シートを取り外すと確認できます。P. 130



⚠ 警告

Honda 純正部品以外のアクセサリー・部品の使用や、不正な改造は思わぬ事故の原因となり、重傷を負ったり、死亡したりすることがあります。

Honda 純正部品を使用してください。

バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリーを使用しており、バッテリー液の点検、補給は必要ありません。バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。
また、密閉式の液口キャップは絶対に取り外さないでください。バッテリー充電時も液口キャップを取り外す必要はありません。

アドバイス
バッテリーには寿命があります。交換時期については、Honda 販売店にご相談ください。交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリーを使用してください。

万一の場合の応急処置

以下のようなときは、応急処置したあと、直ちに医師の診察を受けてください。

- 電解液が眼に付着したとき
  ▶ コップなどに入れた水で、15 分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、眼を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚に付着したとき
  ▶ 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
  ▶ 水、または牛乳を飲んでください。

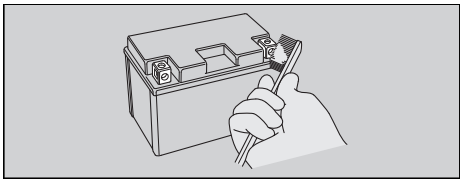
⚠ 警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、眼や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- バッテリーの近くで作業するときは、保護メガネと保護服を着用
- バッテリーを子供の手の届く所に置かない
- ショートによる火花やたばこなどの火気に十分注意する

ターミナル部の清掃

1. バッテリーを取り外す。 P. 131
2. ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭く。
3. ターミナル部の腐食が著しいときは、ワイヤーブラシまたはサンドペーパーで磨く。



4. 清掃後、バッテリーを取り付ける。

電装部品やアクセサリーを取り付けるときは純正アクセサリーをご使用ください。それ以外のものを使用するとバッテリーあがりや故障の原因となります。

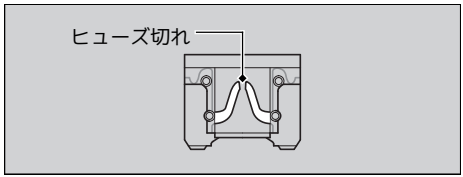
ヒューズ

この車の電気回路は、ヒューズで保護されています。電装部品が動作しないときは、ヒューズを調べ、必要に応じて交換してください。 P. 169

ヒューズの点検・交換

メインスイッチを○（Off）にして、ヒューズを取り外して点検します。切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換してください。

ヒューズの容量はスペックページをご確認ください。 P. 188



アドバイス

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、ヒューズの劣化以外の原因が考えられます。 Honda 販売店にご相談ください。

エンジンオイル（トランスミッションオイル）

エンジンオイルは走行距離や走行状況、時間の経過とともに劣化したり減っていきます。そのため、定期交換時期に行う交換だけではなく日常点検によるオイル点検・補給が必要です。汚れたり古くなったオイルはエンジンに悪影響を与えますので早めに交換してください。
オイル交換は Honda 販売店で行うことを推奨します。交換時期はスペックページをご確認ください。➡P. 188

エンジンオイル（トランスミッションオイル）の選びかた

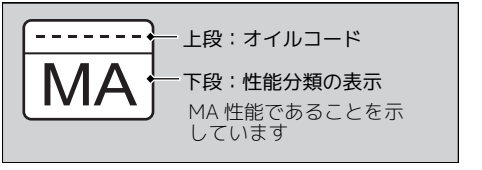
推奨エンジンオイル（トランスミッションオイル）：
Honda 純正　Pro Honda STANDARD

相当品をご使用の場合は、オイル容器の表示を確認し、下記の全ての規格を満たしているオイルをお選びください。全ての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

- JASO T 903 規格※1：MA
- SAE 規格※2：10W-30
- API 分類※3：SJ 級以上

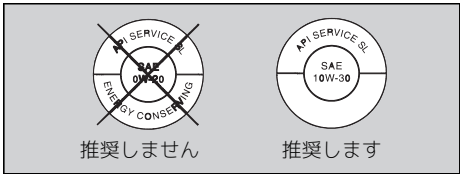
また、必要以上に摩擦を低減するオイル添加剤はエンジンやクラッチの性能や寿命に悪影響を与える場合がありますので使用しないでください。

※1: JASO T 903 規格は、二輪車用 4 サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



※2: SAE 規格は、オイルの粘度を定めた規格です。

※3: API 分類は、エンジンオイルのグレードに関する分類です。API マークの入っている相当品を使用する場合、下記のものをご使用ください。



推奨しません　推奨します

ブレーキ液

銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。ブレーキ液が変質したりブレーキ装置の故障の原因となることがあります。

アドバイス

ブレーキ液は、プラスチックや塗装面を損傷します。漏れたブレーキ液は直ちに拭き取ってください。

指定ブレーキ液：

Honda 純正ブレーキフルード
DOT 4

冷却水

Honda 純正ラジエーター液を、蒸留水または水道水で下記濃度に薄めてお使いください。

標準濃度：50%
濃度による不凍温度：
30% の場合：-16°C まで
50% の場合：-36°C まで

アドバイス

指定以外のラジエーター液や不適当な水（井戸水や天然水）を使うと、サビなどの原因となります。

エアクリーナー

この車には、ろ紙にオイルを含ませたビスカス式のエアクリーナーエレメントが装備されており点検・清掃は不要ですが定期的な交換が必要です。
エアクリーナーエレメントの交換は、Honda 販売店にご相談ください。交換時期はスペックページをご確認ください。➔ P. 188

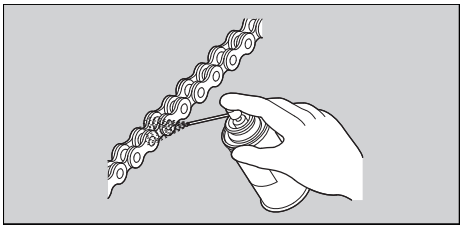
ドライブチェーン

チェーンは、定期的に点検および給油を行ってください。また悪路走行が多い場合や連続高速走行、急加速を繰り返すような運転を行う場合には、頻繁に点検を行ってください。➡P. 139
チェーンの異常（回転が滑らかでない、異音、固着、ローラーやO−リングの損傷）は、Honda 販売店にご相談ください。

ドライブチェーンの清掃と給油

緩み（たるみ）の点検後、車体を前後に動かし、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れを中性洗剤またはチェーンクリーナーを使用し、乾いた布などで落とします。汚れがひどい場合、やわらかいブラシを使用してください。汚れを落としたあとは、十分に乾燥させ、推奨オイルをチェーンローラーの両側に給油してください。

推奨オイル：
Honda 純正チェーンオイルまたは相当品



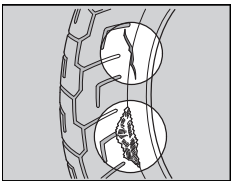
チェーンは、ゴムのシールを使用しているため、スチーム / 高圧洗浄、ワイヤーブラシ、ガソリンやベンゼンなどの揮発性溶剤、研磨材が入っている洗剤は使用しないでください。
シール（O-リング）チェーン専用の、クリーナーや潤滑油（チェーンスプレーなど）以外は使用しないでください。
オイルがブレーキやタイヤに付着しないようにしてください。チェーンにオイルをつけ過ぎると、衣服や車に飛び散り汚しますので、オイルをつけ過ぎないよう注意してください。

タイヤ

空気圧の点検

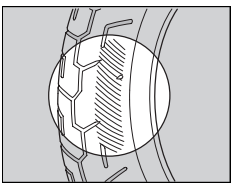
タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいため、少なくとも 1 か月ごとにタイヤゲージを使用して空気圧を点検してください。
タイヤは、走行後は温まり空気圧が高くなることがありますので、必ず冷えた状態で点検してください。

亀裂と損傷の点検



タイヤの全周に、亀裂や損傷、ひび割れおよび釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

異状な摩耗の点検

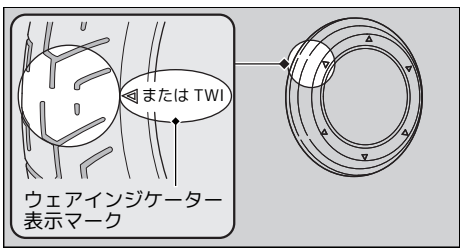


タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。

次ページに続く

溝の深さの点検

ウェアインジケーター（スリップサイン）により溝の深さを確認します。サインが現れたときは、直ちに交換してください。また、安全走行のため、トレッド中央部の溝の深さが最小残溝量になったときは交換してください。



⚠ 警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。
タイヤの交換は、Honda 販売店にご相談ください。指定タイヤ、空気圧、最小残溝量（溝の深さ）はスペックページをご確認ください。➔ P. 187

- ホイールバランス調整のためにバランスウェイトを貼り付けるときは、Honda 純正部品、又は同等品のバランスウェイトを使用してください。

⚠ 警告

指定以外のタイヤを取り付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。また、そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取り付けてください。

クリップ

取り外し

1. 中央部のピンを押しこんでロックを解除する。
2. クリップを引き抜く。



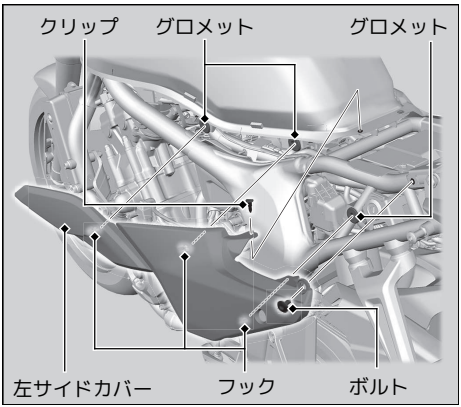
取り付け

1. ピンの下端を押し戻して取り付け状態にする。



2. クリップを穴に差し込む。
3. ピンを軽く押してロックする。

左サイドカバー



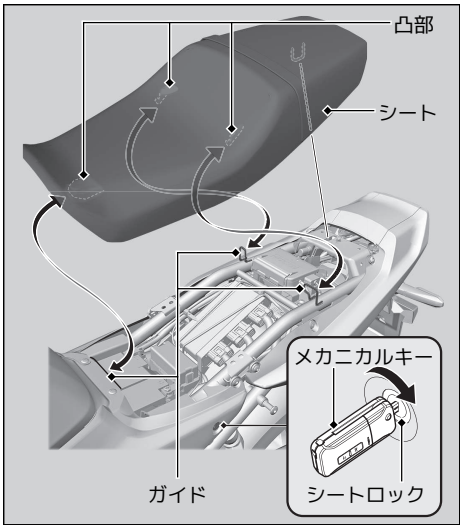
取り外し

1. シートを取り外す。P. 130
2. クリップを取り外す。P. 128
3. ボルトを取り外す。
4. 左サイドカバーを引き、フックをグロメットから外す。

取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

シート



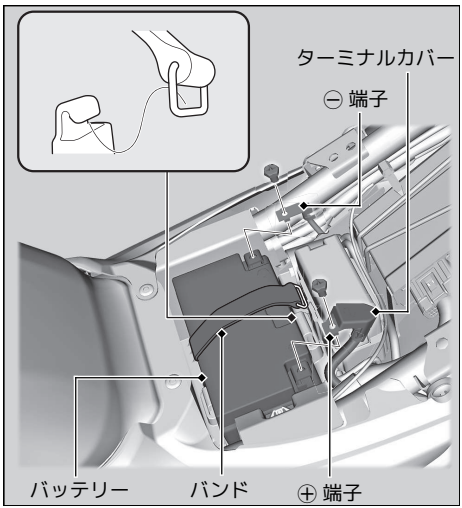
取り外し

1. メカニカルキーをシートロックに差し込み、右に回してシートロックを解除する。
2. シートを後方へずらしながら持ち上げて取り外す。

取り付け

1. フレームのガイドにシートの凸部を差し込む。
2. シートを前方に押しながら、シートの後方を押し下げ、ロックする。
   ▶ シートを軽く持ち上げて、ロックがかかっていることを確認してください。
3. メカニカルキーを抜く。
   ▶ メカニカルキーをシート下に置き忘れた状態でシートを取り付けると、自動的にロックされ、キーを取り出せなくなりますのでご注意ください。

バッテリー



取り外し

メインスイッチが◯（Off）になっていることを確認してください。

1. シートを取り外す。 P. 130
2. バンドを取り外す。
3. ⊖端子のボルトを外し、⊖コードを外す。
4. ターミナルカバーをめくり、⊕端子のボルトを外し、⊕コードを外す。
5. 端子のナットを落とさないよう、バッテリーを取り出す。

次ページに続く

取り付け

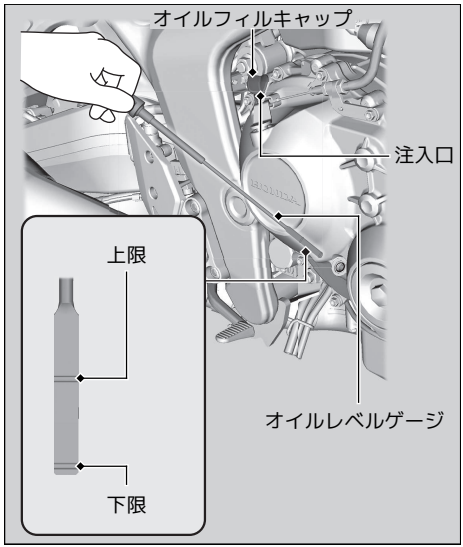
取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。バッテリーコードは、必ず先に⊕側より取り付けてください。また、ターミナル部にゆるみが生じないように、確実にボルトを締め付けてください。

バッテリーコードを再び取り付けたときに、時計の表示がずれている場合は合わせ直してください。➔P. 56

バッテリーの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。➔P. 120

オイルの量の点検

1. エンジンが冷えている場合は、3 ～ 5 分ほどアイドリングさせる。
2. メインスイッチを○（Off）にしてエンジンを止め、2 ～ 3 分間待つ。
3. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立てる。
4. オイルレベルゲージを外す。
5. 布等でオイルレベルゲージについたオイルを拭く。
6. 車を倒さないようにまっすぐに起こす。
7. オイルレベルゲージをねじ込まずに差し込む。
8. オイルがオイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認する。
9. オイルレベルゲージを確実に取り付ける。



オイルの補給

エンジンオイルが不足している、またはオイルレベルが下限に近いときは、推奨エンジンオイルを上限まで補給してください。 ➡P. 122, ➡P. 187

1. エンジンオイルの点検後、オイルフィルキャップを取り外し、オイルレベルゲージで確認（➡P. 133）しながら、オイルを注入口より補給する。
   - ▶ 上限を超えて補給しないでください。
   - ▶ ゴミが入らないようにしてください。
   - ▶ オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。
2. オイルフィルキャップとオイルレベルゲージを確実に取り付ける。

アドバイス

オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。また銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。

推奨エンジンオイルやオイルの選びかたについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。 ➡P. 122

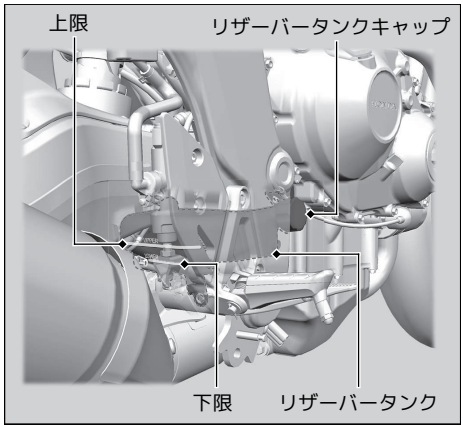
オイル漏れの点検

エンジンなどから、オイルが漏れていないことを確認します。

冷却水の量の点検

1. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立てる。
2. 車を倒さないようにまっすぐに起こす。
3. 冷却水がリザーバータンクの上限（UPPER）と下限（LOWER）の間にあることを確認する。

冷却水の減り具合が著しいとき、またはリザーバータンクに冷却水がない場合は水漏れが考えられます。Honda 販売店にご相談ください。



冷却水の補給

冷却水の補給はリザーバータンクキャップから行い、ラジエーターキャップは外さないでください。

1. リザーバータンクキャップを取り外す。
2. 平坦地で車体を垂直にし、冷却水（P. 123）のレベルを確認（P. 135）しながら補給する。
   ▶ 上限（UPPER）を超えて補給しないでください。
   ▶ ゴミが入らないようにしてください。
3. リザーバータンクキャップを確実に取り付ける。

⚠ 警告

エンジンが熱いときにラジエーターキャップを外すと冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

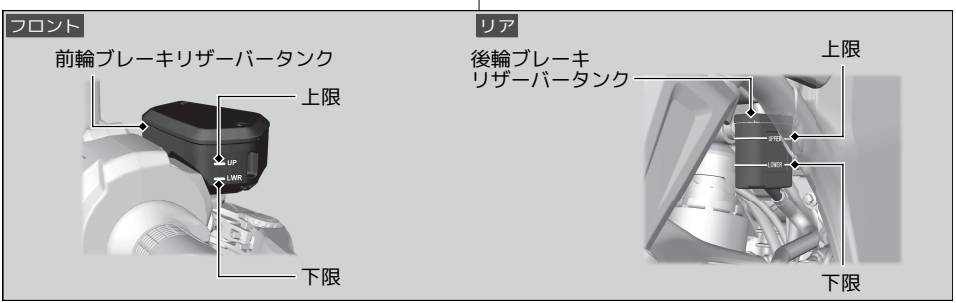
ラジエーターキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエーターが冷えていることを確認してください。

ブレーキ液の点検

1. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立てる。
2. フロント リザーバータンク上面を水平にし、液面が上限（UP）と下限（LWR）の間にあることを確認する。
   リア リザーバータンク上面を水平にし、液面が上限（UPPER）と下限（LOWER）の間にあることを確認する。

▶ 液面が下限（LWR または LOWER）以下の場合、ブレーキパッドの摩耗の点検を行ってください。

パッドが摩耗していない場合、あるいは液漏れやホースに損傷があるときは Honda 販売店にご相談ください。



ブレーキパッドの摩耗の点検

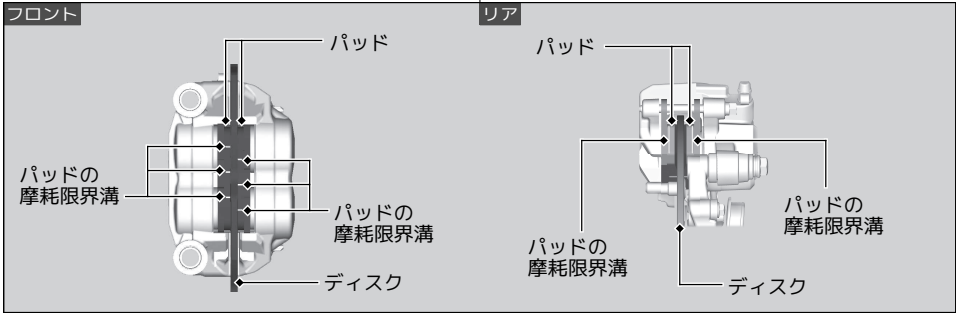
フロント
パッドの摩耗限界溝が無くなったら、パッドの摩耗限界です。

リア
パッドの摩耗限界溝がブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。

摩耗限界に達したら左右同時にパッドを交換してください。

ブレーキパッドの交換は、Honda 販売店にご相談ください。

1. フロント
   ブレーキキャリパーの前側からのぞいて点検します。
   ▶ 点検は片側だけでなく、左右のキャリパーで行ってください。
2. リア リアホイールの右側後方からのぞいて点検します。



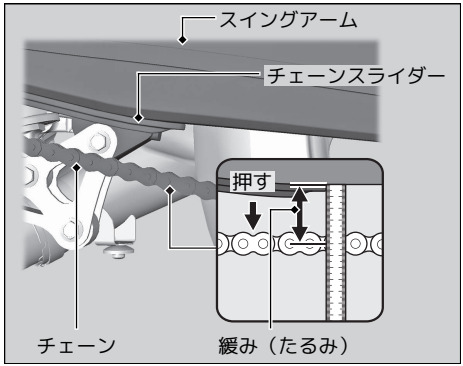
緩み（たるみ）の点検

チェーンの緩み（たるみ）が適正かどうか、滑らかに回転するか点検します。緩み（たるみ）が規定の範囲を超えている場合、回転が滑らかでないときは Honda 販売店にご相談ください。

1. トランスミッションをニュートラルに入れて、エンジンを停止する。
2. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立てる。
3. チェーンの下側を引き下げ、チェーンスライダーの後端部で、スイングアームからチェーンまでの距離を計測し、既定の範囲内にあることを確認する。

ドライブチェーンの緩み（たるみ）：
58 - 63 mm

► 緩みが 68 mm 以上の場合、絶対に走行しないでください。

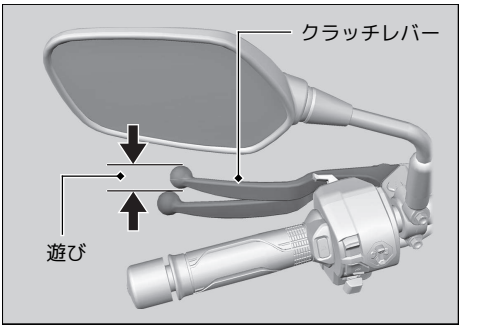


4. 車体を垂直にし、車体を前後に動かしてチェーンが滑らかに回転することを確認する。
   ► チェーンの回転が滑らかでない場合や、異音が出る場合は清掃と給油を行ってください。 P. 124

クラッチの点検

スムーズに動くかどうか、ハンドルを左右にきっても作動が重くないか、クラッチレバーの遊びが適正か点検します。
遊びが規定の範囲を超えている場合は調整してください。
異状を感じた場合やクラッチケーブル外表部に損傷があるときは Honda 販売店にご相談ください。

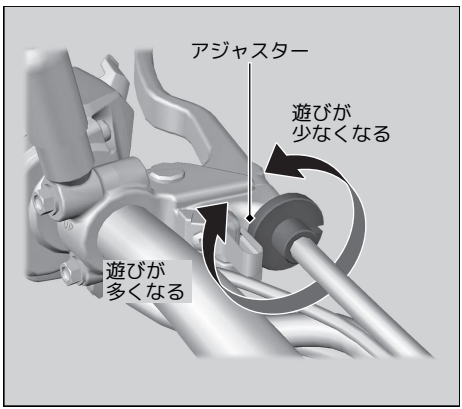
クラッチレバーの遊び：
10 - 20 mm



クラッチの調整

調整はクラッチレバー側から行います。

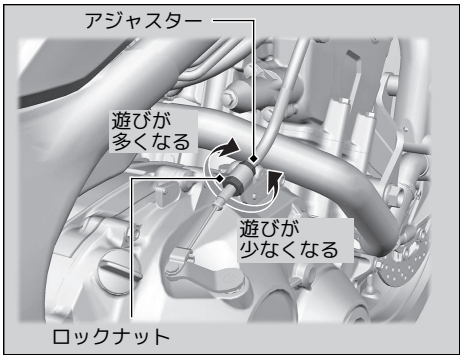
クラッチレバー側の調整（微調整）



遊びが規定の数値になるまでアジャスターで調整します。
調整しきれない場合、クラッチ側で調整します。

次ページに続く

クラッチ側の調整（主調整）



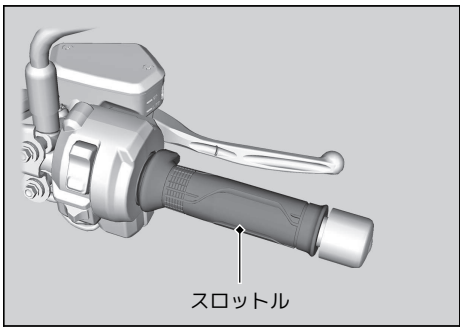
1. クラッチレバー側の遊びを最大にする。
P. 141
2. ロックナットを緩め、遊びが規定の数値になるまでアジャスターで調整する。
3. ロックナットを締め付ける。

調整後は、クラッチレバーの遊びを確認してください。
エンジンをかけ、チェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出し等がないことを確認してください。

規定の数値に調整できない場合や、クラッチが正しく動作しないときは Honda 販売店にご相談ください。

スロットルの点検

メインスイッチを○（Off）にした状態でスロットルを作動させ、スムーズに動くかどうか点検します。異状を感じた場合は Honda 販売店にご相談ください。

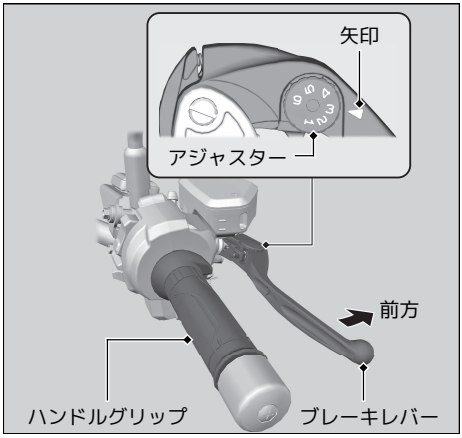


ブレーキレバーの距離調整

ブレーキレバーに、レバーとハンドルグリップの間隔を調整できるアジャスターが装備されています。

調整方法

レバーを前方に押しながらアジャスターを回し、アジャスターの数字と矢印が合う位置で段階的に調整します。



調整後は、走行する前にブレーキが正常に作動することを確認してください。

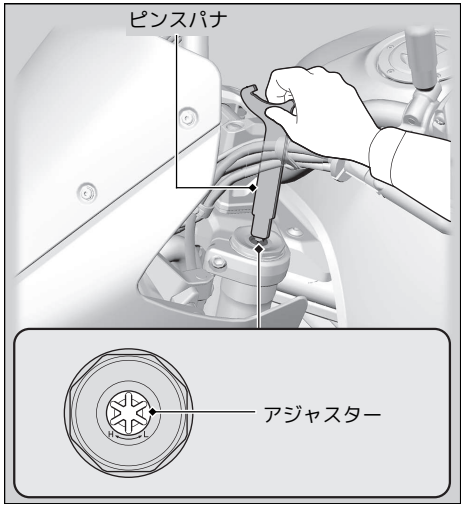
アドバイス

調整範囲を超えてアジャスターを回さないでください。

フロントサスペンションの調整

スプリングの強さ

体重や路面の状態などに応じ、スプリングの強さを調整できます。
スプリングの強さは、携帯工具のピンスパナを使い、アジャスターを回して調整します。
アジャスターを H 側（時計回り）に回すと強くなり、L 側（反時計回り）に回すと弱くなります。
スプリングのアジャスターは、20 回転回すことができます 。
標準は、アジャスターを L 側（反時計回り）に止まるまで回したあと、H 側（時計回り）に 7 回転戻した位置です。



アドバイス
アジャスターは、無理に回さないでください。

次ページに続く

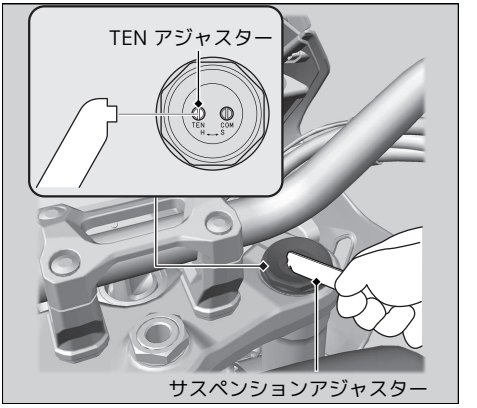
伸び側減衰力

体重や路面の状態に応じ、伸び側減衰力を調整できます。

減衰力の強さは、携帯工具のサスペンションアジャスターを使い、TEN アジャスターを回して調整します。TEN アジャスターを H 側（時計回り）に回すと強くなり、S 側（反時計回り）に回すと弱くなります。

TEN アジャスターは、5 1/2 回転回すことができます 。

標準は、TEN アジャスターを H 側に軽く止まるまで回したあと、S 側に 3 回転戻した位置です。

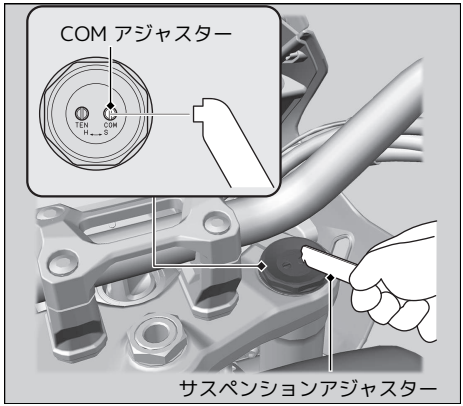


アドバイス

アジャスターは、無理に回さないでください。

縮み側減衰力

体重や路面の状態に応じ、縮み側減衰力を調整できます。
減衰力の強さは、携帯工具のサスペンションアジャスターを使い、COM アジャスターを回して調整します。COM アジャスターを H 側(時計回り）に回すと強くなり、S 側（反時計回り）に回すと弱くなります。
COM アジャスターは、7 回転回すことができます 。
標準は、COM アジャスターを H 側に軽く止まるまで回したあと、S 側に 5 回転戻した位置です。



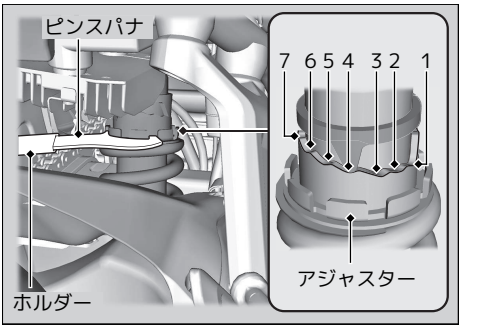
アドバイス
アジャスターは、無理に回さないでください。

リアサスペンションの調整

スプリングの強さ

体重や路面の状態に応じ、スプリングの強さを調整できます。調整にはピンスパナとホルダーを使います。

スプリングの強さは、7 段階に調整することができます 。
スプリングの強さは 1 ～3 にすると弱くなり、5 ～ 7 にすると強くなります。標準は 4 です。



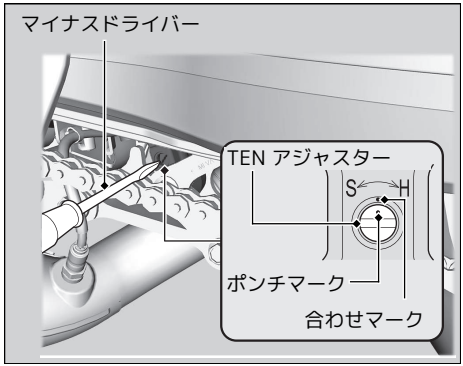
アドバイス
アジャスターを直接 1 から 7 または 7 から 1 に無理に回すとリアクッションが破損します。

アドバイス
アジャスターは、無理に回さないでください。

伸び側減衰力

体重や路面の状態に応じ、伸び側減衰力を調整できます。減衰力の強さは、携帯工具のマイナスドライバーを使い、TEN アジャスターを回して調整します。

TEN アジャスターを H 側（時計回り）に回すと強くなり、S 側（反時計回り）に回すと弱くなります。
TEN アジャスターは、 2 回転回すことができます 。
標準は、TEN アジャスターを H 側に軽く止まるまで回したあと、S 側に 1/2 回転戻し、ポンチマークが合わせマークに合う位置です。



アドバイス
アジャスターは、無理に回さないでください。

Honda SMART Key の電池交換

メインスイッチを▌（On）にしたとき Honda SMART Key 警告灯が 5 回点滅した場合や作動距離が不安定になった場合は、早めに電池を交換してください。
電池を交換するときは、 Honda SMART Key の各スイッチを押さないでください。
電池交換の際は Honda 販売店での交換をおすすめします。

使用電池：
ボタン電池 CR2032/CR2032H

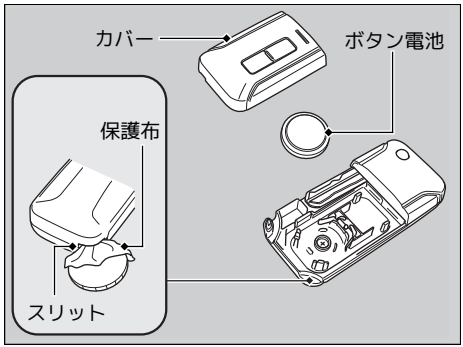
⚠ 注意

ボタン電池および取り外した部品は小さいため、子供が誤って飲み込み、傷害を受ける可能性があります。
ボタン電池および取り外した部品を子供の手の届く所に置かないでください。

1. スリットに、保護布をあてたマイナスドライバーもしくはコインなどを差し込み、カバーを取り外す。
- ▶ 傷つき防止のためマイナスドライバーもしくはコインなどは保護布をあててください。
- ▶ 本体の内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- ▶ 防水シール部分の傷つきやゴミの混入にご注意ください。耐水性能の低下や故障の原因となります。
- ▶ 電池交換の際、本体に無理な力を加えないでください。

2. 古いボタン電池を取り出し、新しいボタン電池の⊖側を上側にしてはめ込む。

3. カバーを取り付ける
- ▶ カバーは正しい位置で取り付けられていることを確認してください。



こんなときは

エンジンが始動しない ..... P. 153
オーバーヒート（水温警告と警告灯が点灯） .. P. 154
警告灯が点灯／点滅 ..... P. 155
油圧警告灯 ..... P. 155
PGM-FI 警告灯 ..... P. 156
ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯 ..... P. 157
トルクコントロール警告灯 ..... P. 158
Honda SMART Key 警告灯 ..... P. 159
緊急時のメインスイッチの解錠 ..... P. 160
その他の故障表示 ..... P. 163
燃料計の故障表示 ..... P. 163
水温計の故障表示 ..... P. 164
ハンドルグリップヒーターの故障表示 ..... P. 164
Honda SMART Key システムが正しく作動しない ..... P. 165
スマートフォンのペアリングトラブル ..... P. 167
電装部品のトラブル ..... P. 169
ヒューズ切れ ..... P. 169

スターターモーターは作動するがエンジンが始動しないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか ➡P. 99
- 燃料タンクにガソリンはあるか
- PGM-FI 警告灯が点灯していないか
  - ► 点灯している場合は、直ちに Honda 販売店にご相談ください。

スターターモーターが作動せず始動できないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか ➡P. 99
- ヒューズが切れていないか ➡P. 121
- バッテリーターミナル部に緩みや腐食がないか ➡P. 120

これらに該当しない場合や異常がある場合は、Honda 販売店にご相談ください。

オーバーヒート（水温警告と警告灯が点灯）

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温警告と警告灯が点灯している
- 設定モードの「水温」で水温の表示が点滅している
- 走行時の加速が急に悪くなる

このようなときは直ちに安全な場所に車を停めて次の処置・確認を行ってください。

アドバイス

オーバーヒートの状態で走行を続けると、エンジン故障の原因となります。

長時間のアイドリングにより、水温警告と警告灯が点灯する場合があります。

オーバーヒートの処置

1. メインスイッチを○（Off）にしてエンジンを止め、再度メインスイッチを|（On）にする。
2. ラジエーターの冷却ファンが作動するか作動音で確認し、メインスイッチを○（Off）にする。

冷却ファンが作動しない場合

故障が考えられますので、エンジンをかけずHonda 販売店にご相談ください。

冷却ファンが作動している場合

メインスイッチが○（Off）の状態で、エンジンが冷えるのを待ちます。

3. エンジンが冷えてから、リザーバータンクの冷却水を点検し、冷却水が不足していたら補給する。➔P. 135, ➔P. 136
4. ラジエーターホースなどを点検し、水漏れがないか確認する。

水漏れがある場合

エンジンをかけず、Honda 販売店にご相談ください。

5. 水温警告灯を確認しながら走行する。
   ▶ 異常がなければ走行可能ですが、異常が再発しない場合でも、なるべく早くHonda 販売店で点検を受けてください。

油圧警告灯

エンジンオイルの油圧が低下すると点灯します。油圧警告灯と警告灯が点灯したら、速やかにエンジンを停止し、次の点を確認してください。

アドバイス
油圧が低下した状態で走行を続けると、エンジンが故障するおそれがあります。

1. オイルレベルを点検し、必要に応じて補給する。 P. 133
2. エンジンを始動する。
   - ▶ 油圧警告灯と警告灯が消えたら、走行できます。
   - ▶ 消灯しない場合は、エンジンを止めてHonda 販売店にご相談ください。
   - ▶ 急な加速をすると油圧警告灯と警告灯が瞬間的に点灯する場合があります。（特にオイルレベルが下限、下限付近の場合）
   - ▶ オイルが減っていた場合、オイル漏れや故障のおそれがありますので、Honda 販売店で点検を受けてください。

PGM-FI 警告灯

点灯/点滅の理由

- エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

点灯したときは

高速走行をさけ、直ちに Honda 販売店で点検を受けてください。

アドバイス

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

アドバイス

エンジン再始動後、PGM-FI 警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯

警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、Honda 販売店にご相談ください。

- 運転中に点灯または点滅したとき
- メインスイッチを▌（On） にしても点灯しないとき
- 10 km/h 以上で走行しても消灯しないとき

警告灯が点灯または点滅した場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。（ABSとしての作動はしません）

ABS 警告灯が消灯しているときに、後輪が持ち上がった状態で後輪を空転させると、警告灯が点滅する場合があります。この場合はメインスイッチを〇（Off）にし、再度メインスイッチを▌（On） にします。警告灯が点灯し、速度が約 30 km/h に達して消灯すれば正常です。

トルクコントロール警告灯

警告灯が以下のような状態になった場合、トルクコントロールの異常が考えられますので、Honda 販売店にご相談ください。

- 走行中に点灯し続けたとき
- メインスイッチを|（On）にしても点灯しないとき
- 5 km/h 以上で走行しても消灯しないとき

警告灯が点灯した場合でも走行は可能です。（トルクコントロールは作動しません）

▶ トルクコントロール作動中に警告灯が点灯したときは、一度スロットルグリップを完全に閉じることで、通常の状態に戻ります。

トルクコントロール警告灯が消灯した状態で、メインスタンドを立てるなどして後輪を空転させた場合、警告灯が点灯する場合があります。この場合はメインスイッチを○（Off）にし、再度メインスイッチを|（On）にします。警告灯が点灯し、速度が約 5 km/h に達して消灯すれば正常です。

Honda SMART Key 警告灯

Honda SMART Key 警告灯が 5 回点滅したとき

Honda SMART Key のボタン電池を交換してください。P. 150

メインスイッチの位置が▌（On）の状態で Honda SMART Key 警告灯が点滅したとき

メインスイッチが▌（On）のとき車両と Honda SMART Key の通信が途切れると Honda SMART Key 警告灯が点滅します。
以下の場合、通信が途切れることがあります。

- 強い電波やノイズの影響
- 走行中の Honda SMART Key の紛失

但しメインスイッチが施錠されるまでは操作に影響はありません。

Honda SMART Key 警告灯が点滅中にメインスイッチの位置を○（Off）または🔒（Lock）にすると、Honda SMART Key 警告灯が約 20 秒点滅します。その後自動的に消灯し、メインスイッチが施錠されます。

▶ この機能の最初と最後を方向指示器の点滅でお知らせします。

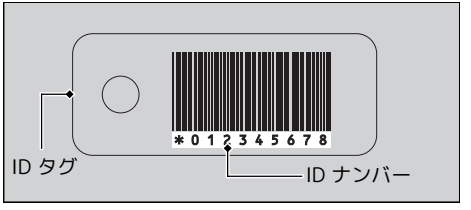
メインスイッチを 2 秒以上押し続けることでもこの点滅を解除できます。点滅を解除するとメインスイッチは施錠されます。

Honda SMART Key がない場合、別の方法でメインスイッチを解錠することができます。P. 160

ID タグを使ってメインスイッチを解錠できます。

準備

1. ID タグの ID ナンバーを確認する。
2. メインスイッチを 4 秒以上押し続ける。
   ▶ Honda SMART Key 警告灯が点滅します。
3. Honda SMART Key 警告灯が点滅中にメインスイッチを押す。
   ▶ Honda SMART Key 警告灯が点灯に変わり、ID ナンバー入力モードになります。



ID ナンバーの入力

メインスイッチが〇（Off）、または🔒（Lock）の位置のとき ID タグの ID ナンバーを左から順にメインスイッチを押すことによって入力します。

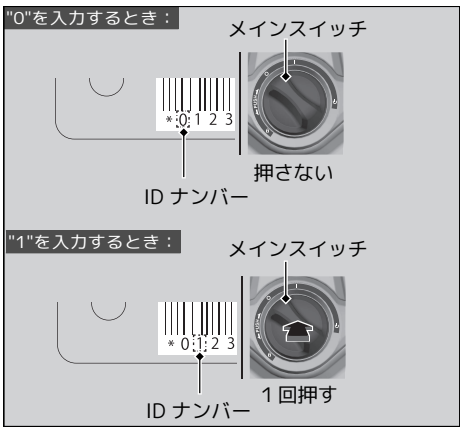
ID ナンバーはメインスイッチを押した数によって認証されます。

Honda SMART Key 警告灯が点灯してから 5 秒以内にメインスイッチを必要な回数押してください。

5 秒経過すると、Honda SMART Key 警告灯が消灯し入力したナンバーが決定されます。再び点灯したら、次の桁のナンバーを入力してください。

入力例

- "0"を入力するには、Honda SMART Key 警告灯が点灯中に、メインスイッチを押さずに 5 秒間待つ。
- "1"を入力するには、Honda SMART Key 警告灯が点灯してから 5 秒以内に、メインスイッチを 1 回押す。



ID ナンバー入力が成功した場合

最後の ID ナンバーの入力が終了すると、Honda SMART Key 警告灯が消灯し、再び点灯したあと、メインスイッチが解錠されます。

メインスイッチを 6 分以内に▌（On）にしてください。

エンジンの始動が可能になります。

メインスイッチの施錠は ○（Off）、または🔒（Lock）の位置にしてメインスイッチを 2 秒間押してください。

また、 ID ナンバー入力に成功した後、メインスイッチが○（Off）、または🔒（Lock）の位置で 6 分経過すると自動的に施錠されます。

メインスイッチが施錠されると Honda SMART Key 警告灯が消灯し、方向指示器が 1 回点滅します。

再びメインスイッチを解錠するには、緊急時のメインスイッチの解錠をやり直してください。

次ページに続く

ID ナンバー入力に失敗した場合

最後の ID ナンバーの入力が終了すると、Honda SMART Key 警告灯が 1 秒ごとに点滅したあと消灯します。

メインスイッチは解錠されません。

緊急時のメインスイッチの解錠をやり直してください。➔ P. 160

ID ナンバー入力をキャンセルする場合

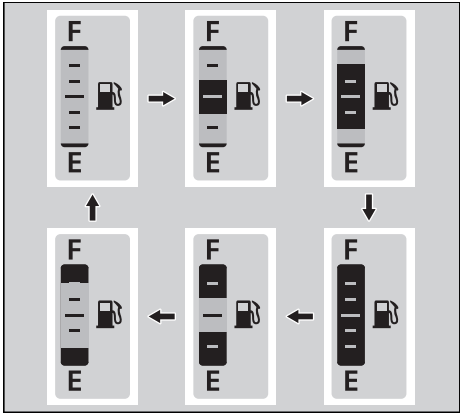
ID 入力中に間違えた場合は、以下のいずれかの方法でキャンセルしてください。

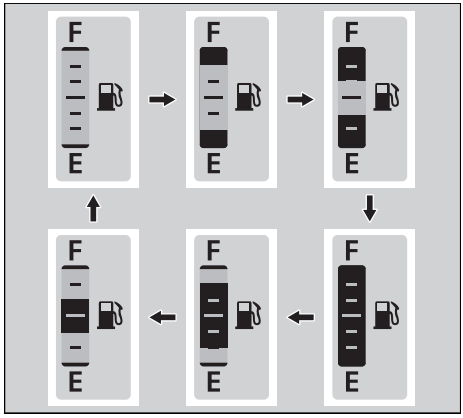
- メインスイッチを押し続ける。
  ▶ Honda SMART Key 警告灯が消灯します。
- メインスイッチを押さずに Honda SMART Key 警告灯が消灯するまで待ちます。

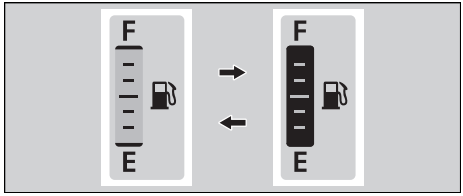
緊急時のメインスイッチの解錠をやり直してください。➔ P. 160

燃料計の故障表示

燃料計のマークが図のように点灯、消灯をくりかえしたときは Honda 販売店にご相談ください。

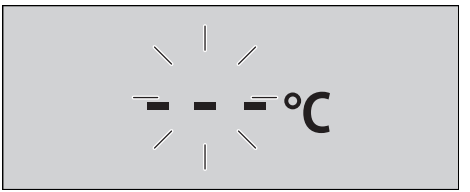






水温計の故障表示

水温計が図のように点灯、消灯をくりかえしたときは Honda 販売店にご相談ください。

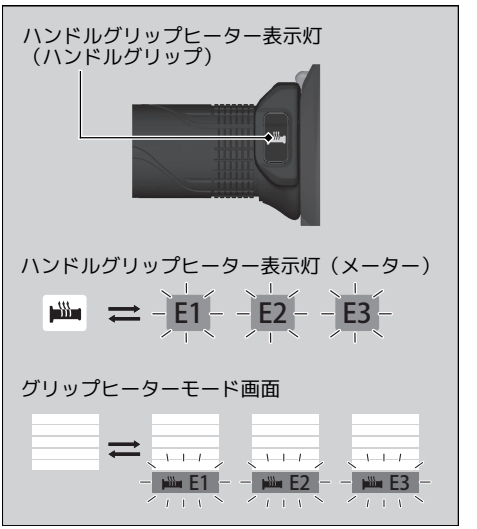


ハンドルグリップヒーターの故障表示

CB1000F SE

ハンドルグリップヒーター表示灯が点滅したり、グリップヒーターモード画面（P. 35）で“E1”、“E2”、“E3” が点滅表示した場合は、ハンドルグリップヒーターの異状が考えられます。

点滅が消えない場合は、Honda 販売店にご相談ください。



Honda SMART Key システムが正しく作動しない

Honda SMART Key システムが正しく作動しない場合は次の点を確認してください。

● Honda SMART Key システムが作動停止状態になっている

Honda SMART Key の ON ／ OFF スイッチを軽く押し LED が赤色のときは作動可能状態に切り換えてください。➔P. 82

Honda SMART Key の LED が点灯しない場合は Honda SMART Key の電池を交換してください。

● Honda SMART Key システムに通信障害がある

Honda SMART Key システムは、微弱な電波を使用しています。よって以下の使用環境では正常に作動しないことがあります。

▶ 近くにテレビ塔や発電所、ラジオ局、空港など強い電波を発生する設備があるとき

▶ Honda SMART Key と一緒にノートパソコン、ラジオ、携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき

▶ Honda SMART Key が金属製のものに接したり、覆われているとき

次ページに続く

● 登録された Honda SMART Key を使用していない
登録された Honda SMART Key を使用しないと、Honda SMART Key システムは作動しません。登録された Honda SMART Key を使用してください。

● 壊れた Honda SMART Key を使用している
Honda SMART Key が壊れているとシステムを作動できません。
ID タグを持って Honda 販売店へご相談ください。

● 車両のバッテリーが弱っている、もしくはあがっている
バッテリーとバッテリーターミナルを点検してください。バッテリーが弱っている、またはあがっている場合は Honda 販売店にご相談ください。

他の原因で Honda SMART Key が作動しない場合は Honda 販売店にご相談ください。

スマートフォンのペアリングトラブル

事象	原因、対処
スマートフォンをペアリングできない	お使いのスマートフォンによっては、車両に対応していない場合や操作可能な機能が制限されている場合があります
	車両とスマートフォンの両方がペアリングモードになっていることを確認してください。➡P. 90
	再ペアリングする前に、周囲を調べて、ペアリングされている他のデバイスが存在しないことを確認してください。 近くに *Bluetooth*®機器が存在すると、電波干渉などによりペアリングに影響を与える場合があります。
	スマートフォンを接続するときは、ペアリングの準備ができている他の *Bluetooth*®デバイスが存在しないことを確認してください。 近くに *Bluetooth*®機器が存在すると、電波干渉などによりペアリングに影響を与える場合があります。
	スマートフォンの *Bluetooth*®設定から車両ペアリング情報が削除されていることを確認してください。 ご使用のスマートフォンによっては、ペアリング情報を削除しないと接続できない場合があります。

次ページに続く

事象	原因、対処
スマートフォンを接続できない	お使いのスマートフォンによっては、車両がスマートフォンに接続して専用アプリの使用を開始するまでに時間がかかる場合があります。
	エンジン始動時に一時的に接続が切断される場合がありますが、これは正常であり、故障ではありません。 エンジン始動後、スマートフォンは再接続されます。
	Bluetooth®ステータスアイコンが表示されることを確認します。 スマートフォンの取扱説明書を参照し、スマートフォンが接続可能な状態であることを確認してください。
	ご使用のスマートフォンによっては、自動接続されない場合があります。 接続については、スマートフォンの取扱説明書の指示に従ってください。
	複数のスマートフォンを同時に接続することはできません。

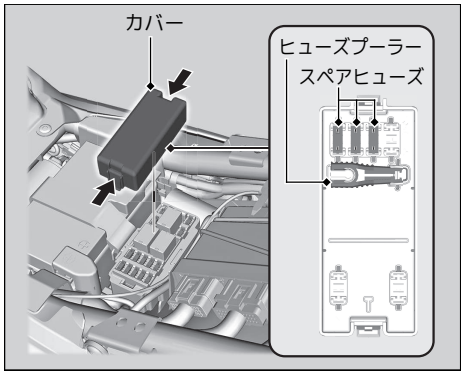
上記の点検を行っても問題が解決しない場合は、Honda 販売店にご相談ください。

ヒューズの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。➔P. 121

ヒューズ切れ

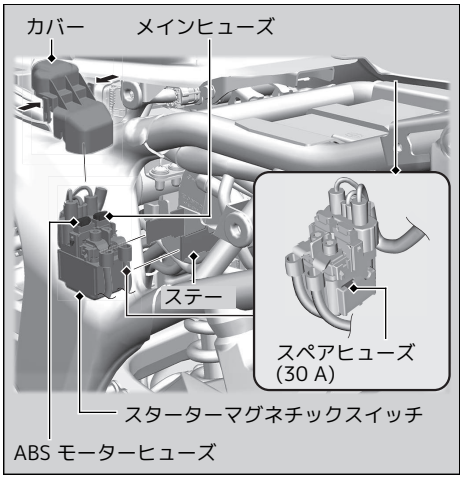
ヒューズボックス内のヒューズ

1. シートを取り外す。➔P. 130
2. ヒューズボックスのカバーを取り外す。
3. ヒューズが切れている場合はヒューズプーラーを使って、同じ容量のスペアヒューズと交換する。
   - ▶ スペアヒューズはヒューズボックスカバーの裏にあります。
   - ▶ ヒューズプーラーはヒューズボックスカバーの裏にあります。
4. ヒューズボックスのカバーを取り付ける。
5. シートを取り付ける。



次ページに続く

メインヒューズ、ABS モーターヒューズ



1. シートを取り外す。➡P. 130
2. 左サイドカバーを取り外す。➡P. 129
3. バッテリーの⊖端子から⊖コードを取り外す。➡P. 131
4. スターターマグネチックスイッチのカバーを取り外す。
5. ステーからスターターマグネチックスイッチを取り外す。
6. メインヒューズ、ABS モーターヒューズが切れている場合は、同じ容量のスペアヒューズと交換する。
   - ▶ スペアヒューズはスターターマグネチックスイッチに取り付けられています。
   - ▶ ヒューズプーラーはヒューズボックスカバーの裏にあります。
7. 外した部品を逆の手順で取り付ける。

アドバイス

ヒューズが切れた際は、早めに Honda 販売店で点検し、スペアのヒューズを補充してください。

インフォメーション

サービス診断記録装置について..... P. 172
キーの取り扱い..... P. 173
装備に関する補足情報 ..... P. 175
車のお手入れ ..... P. 178
保管のしかた ..... P. 182
廃棄するとき ..... P. 182
フレームおよびエンジンナンバー ..... P. 185
触媒装置について..... P. 186

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- 故障診断状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。 なお、会話等の音声や映像は記録されません。

キーの取り扱い

Honda SMART Key

Honda SMART Key を携帯していることで、以下の操作が可能になります。

- メインスイッチの施錠・解錠
- ハンドルロックの施錠・解錠

ID タグには、Honda SMART Key の ID ナンバーが記載されています。
ID ナンバーを入力することでメインスイッチを解錠することもできます。
ID タグを常に携帯してください。但し、同時紛失しないよう、Honda SMART Key とは別に携帯してください。
万が一の場合に備えて、ID ナンバーを紙などに控えて車両以外の場所に大切に保管してください。
キータグも大切に保管してください。

Honda SMART Key には電子回路が内蔵されています。電子回路が故障すると Honda SMART Key は作動しません。

- Honda SMART Key を無理に曲げたり、強い衝撃を与えたりしない
- 直射日光のあたるところ、高温、多湿になるところには置かない
- 削ったり、穴を開けたりしない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない
- テレビ、オーディオ、パソコンなどの電化製品、または低周波治療器などの医療用電子機器の近くに置かない
- Honda SMART Key を濡らさない
  濡れた場合はすぐにやわらかい布で拭き乾かしてください。
- 洗車するときは、Honda SMART Key を車から遠ざける。
- 火であぶったりしない
- 超音波洗浄器などで洗浄しない

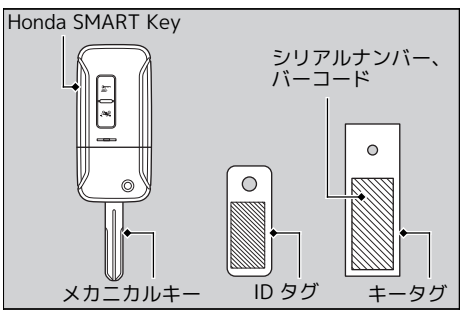
次ページに続く

- Honda SMART Key に油脂類などを付着させない
  ガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着すると、本体が変形したり、ひび割れの原因となるおそれがあります。
- 分解をしない
  電池交換のとき以外は、Honda SMART Key を分解しないでください。
  Honda SMART Key のカバー以外の部品は、分解しないでください。
- Honda SMART Key を紛失しない
  Honda SMART Key を紛失した場合、Honda SMART Key システムの再登録が必要になります。登録は ID タグを持って Honda 販売店へご相談ください。

電池の寿命は、使用状況によりますが約 2 年です。

携帯電話などの無線通信機器を車体の収納スペースに入れないでください。機器の電波によって Honda SMART Key システムが遮断されることがあります。

予備の Honda SMART Key の作成については、Honda 販売店へご相談ください。



装備に関する補足情報

メインスイッチ

エンジンをかけずにメインスイッチを|（On）の状態にしておくとバッテリーあがりの原因となります。

走行中はメインスイッチを操作しないでください。

エンジンストップスイッチ

このスイッチは、非常時に、すぐにエンジンを止めるために設けたものです。非常時以外は使用しないでください。走行中に操作すると、エンジン回転が不安定になり、走行に悪影響を与えます。
非常時にこのスイッチでエンジンを止めた場合は、メインスイッチを必ずO（Off）にしてください。|（On）のままにしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

オドメーター

オドメーターは、999,999 km を超えると 999,999 km でロックします。

トリップメーター

トリップメーター A／B は、9,999.9 km を超えると 0.0 km に戻ります。

アシストスリッパークラッチシステム

アシストスリッパークラッチは、走行時のシフトダウンによる急激なエンジンブレーキを緩和することで、リアタイヤのロックを防ぎ、クラッチ操作を容易にするシステムです。

エンジンオイルは MA 分類のものを使用してください。MA 分類以外のエンジンオイルを使用すると、アシストスリッパークラッチシステムの故障の原因になります。

次ページに続く

▌書類入れ

取扱説明書、登録書類、保険証、メンテナンスノートなどは書類入れに入れ、シートの裏側に収納してください。

▌イグニッションカットオフシステム

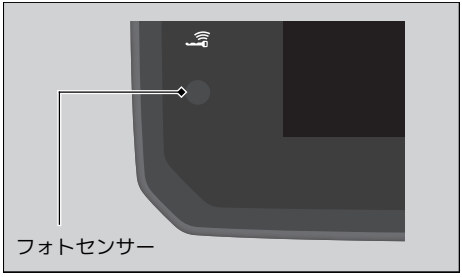
この車は、転倒したとき、自動的にエンジンを停止するシステムが装備されています。エンジンを再始動するときは、システムの作動を解除するためにメインスイッチを一度O（Off）にしてください。IMU の故障が検出された場合、車両が転倒してもエンジンと燃料ポンプは自動的には停止しません。

▌スロットルバイワイヤシステム

この車は、スロットルバイワイヤシステムが装備されています。
磁化されているものや磁気の干渉を受けやすいものは、右側のハンドルスイッチ周辺に近づけないでください。

▌ディスプレイの自動調光

設定モードの「明るさ」と「背景」調整で「自動」を選択した場合、周辺の明るさをフォトセンサーで感知し、ディスプレイの明るさと背景色を自動で調節します。 ➡P. 49 ➡P. 50
フォトセンサーを傷つけたり、覆ったりすると自動調光が正常に作動しない場合があります。



ヘッドライト、ストップ／テールランプ、フロントウィンカー／ポジションランプ、リアウィンカー、ライセンスプレートライト

LED 使用のライトは一体式です。
もし、1 個でも点灯しなくなった場合は、Honda 販売店にご相談ください。

車のお手入れ

お車を長持ちさせるため、清掃などのお手入れは大切です。普段見逃しがちな異状の発見にもつながります。また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。さらに、泥やほこりが付着するとフロントサスペンションの摩耗が早くなり、オイル漏れを引き起こすことがあります。海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行したあと、泥やほこりの多い場所を走行したあとは、必ず洗車してください。

洗車

エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで洗車しないでください。

1. 全体を水洗いして、汚れを取り除く。
2. 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、スポンジか柔らかいタオルを使って洗う。
   ▶ 傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
3. 十分な水で洗剤を洗い流しやわらかい布で拭きあげる。
4. 車体を乾燥させた後、ドライブチェーンと可動部分に注油する。
5. 車体の腐食を防ぐためワックスがけを行う。

洗車にあたっての注意

洗車するときは、次のことをお守りください。

- 高圧洗車機の使用はさける
  ▶ 車体に高い水圧がかかる洗車を行うと、可動部や電装部品などの作動不良や故障の原因となることがあります。
  ▶ ヘッドライトレンズやフェアリング、その他のプラスチック部品を洗うときは、傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
- マフラーに水を入れない
  ▶ 始動不良やサビの発生などの原因になります。
- シートの下方から水を強くかけない
  ▶ 内部に水が入り、書類などが濡れることがあります。
- エアクリーナー周辺に水を強くかけない
  ▶ エアクリーナー内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。

● ブレーキを濡れたままにしない
▶ 水によってブレーキの効き具合が悪くなることがあります。洗車後は十分に乾かし、慎重なブレーキ操作を心がけてください。
● ワックス、ケミカル類や油脂類を扱うとき
▶ ブレーキやタイヤにオイル等の油脂類、ワックスやケミカル類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。
▶ ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディーの目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。種類によっては塗膜が薄くなったり色むらが生じるものがあります。
▶ つや消し塗装が使われている場合は、塗装面にワックスやケミカル類を使用すると、つや消し感が無くなったり、色むらが生じるおそれがありますので、使用しないでください。

● ヘッドライトがくもったとき
▶ ヘッドライトは雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的にくもることがあります。また、ヘッドライト内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは、雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ヘッドライトの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。
但し、ヘッドライト内に水がたまっている場合や大粒の水滴がついている場合は Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

アルミ部品

アルミ部品は土や泥、あるいは塩分によって腐食します。傷をつけないよう、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 硬いブラシやスチールウールを使用しない
- アルミホイールはすり当てをさけ、縁石などに乗り上げる際は変形に注意する

樹脂部品

傷やひび割れ等を防ぐため、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布やスポンジで汚れを落とす
- 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流す
- メーター、スクリーン、ヘッドライトレンズなどの樹脂部品にガソリン、ブレーキ液、クリーナーなどがかからないようにする

エキゾーストパイプ、マフラー

ステンレス鋼を使用していますので、油脂などの汚れが付着したままエンジンを始動すると、焼けムラが起こります。

汚れが付着した場合は、ステンレス用台所洗剤を使って、やわらかい布かスポンジで洗い落としてください。洗浄後は、十分に水洗いして乾いた布で水分を拭き取ってください。

焼けムラをとる場合は、市販の細目のコンパウンドで磨いたあと、汚れが付着した場合と同じ要領で洗い落としてください。

アドバイス

ステンレス鋼を使用している場合でも、塗装をしているものもあります。
目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。

保管のしかた

屋外に保管する場合はボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。
また、長期間ご使用にならない場合は、次のことをお守りください。

- サビを防ぐために、保管前にワックスがけを行う（つや消し塗装面を除く）
- 雨上がりにはボディーカバーを外し、車体を乾燥させる
- バッテリーは自己放電と電気漏れを少なくするため、車から取り外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存する
  ▶ もしバッテリーを車に積んだままにする場合は、㊀側ターミナルを外してください。

長期保管後にお車を乗る際は、保管期間を考慮した上で、各部の点検を実施してください。

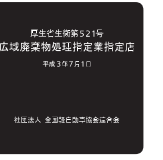
廃棄するとき

地球環境を守るため、お車や交換した部品、なかでも使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、Honda 販売店にご相談ください。
また、将来お車の廃棄を希望するときはお近くの廃棄二輪車取扱店へご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で広域廃棄物処理指定店として登録されている廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。
店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が掲示されています。





二輪車リサイクルマーク、リサイクル料金

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。

ただし、廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークは、シートを取り外すと確認できます。P. 130



お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要です。マークは剥がさないでください。マークの再発行や販売の取り扱いはありません。二輪車リサイクルシステムの概要、ご利用方法等は、Hondaウェブサイト「廃棄段階のリサイクル　二輪車リサイクル自主取り組み」にてご確認いただけます。
http://www.honda.co.jp/motor-recycle/

ダンパーユニット

リアサスペンションのダンパーユニットには、高圧窒素ガスが封入されています。廃棄する場合は、Honda 販売店にご相談ください。

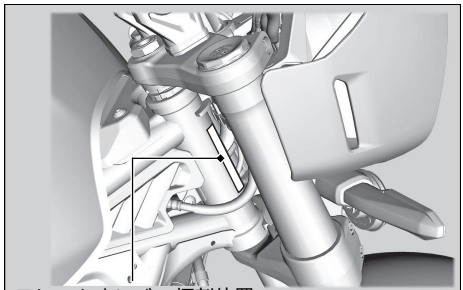
⚠ 警告

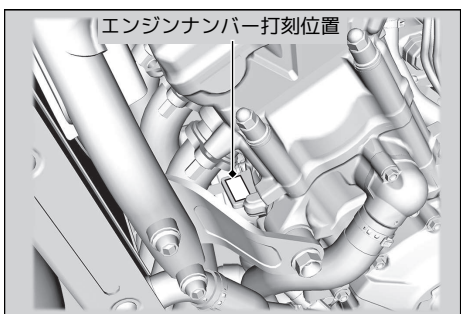
高圧窒素ガスが封入されたダンパーユニットを火中に入れたり、穴を開けたり、分解したりすると、爆発や破裂するおそれがあり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

ダンパーユニットは、
- 火中に入れないでください。
- 穴を開けないでください。
- 分解しないでください。

フレームおよびエンジンナンバー

フレームおよびエンジンナンバーは、部品を注文するときや、車の登録に関する手続きに必要です。また、フレームナンバーは、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手がかりにもなります。ナンバープレートの登録番号とともに別紙に記録し、車と別に保管することを推奨します。


フレームナンバー打刻位置



触媒装置について

この車は平成 32 年排出ガス規制適合車です。 この車には触媒装置が搭載され、排出ガスに含まれる一酸化炭素（CO）、炭化水素（HC）、窒素酸化物（NOx）の 3 つの有害物質の排出量を低減します。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。触媒装置は高温になるので、枯れ草や紙など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

走行上の注意

次のような取り扱いはしないでください。触媒温度が異常に高くなり、損傷するおそれがあります。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチを操作すること
- 空ぶかし直後にエンジンを止めること

触媒装置の損傷を防ぐために

触媒装置が損傷すると、排出ガス濃度を劣化させるだけではなく、車本来の性能を発揮できなくなります。損傷を防ぐために、次のことをお守りください。

- 燃料は、必ず無鉛ガソリンを使用する
- 定められた点検整備を実施する
- エンジン不調を感じたときは、直ちに Honda 販売店で点検を受ける

■ 主要諸元

型式	8BL-SC94	
全長	2,135 mm	
全幅	835 mm	
全高	**CB1000F SE**	1,170 mm
	CB1000F	1,125 mm
ホイールベース	1,455 mm	
最低地上高	135 mm	
キャスター角	25° 0′	
トレール長	98 mm	
車両重量	**CB1000F SE**	217 kg
	CB1000F	214 kg
乗車定員	2 名	
最小回転半径	2.8 m	
排気量	999 cm^3	
ボア×ストローク	76.0 x 55.1 mm	
圧縮比	11.7 : 1	
燃料	無鉛プレミアムガソリン	
燃料タンク容量	16 ℓ	
バッテリー容量	YTZ10S 12 V-8.6 Ah (10HR)	
変速比	1 速	2.642
	2 速	1.941
	3 速	1.583
	4 速	1.333
	5 速	1.137
	6 速	0.967
減速比	1 次	1.717
	2 次	2.812

■ サービスデータ

クラッチレバーの遊び	10 - 20 mm	
タイヤサイズ	前輪	120/70ZR17M/C (58W)
	後輪	180/55ZR17M/C (73W)
タイヤタイプ		ラジアル、チューブレス
指定タイヤ	前輪	DUNLOP Roadsport2 U
		BRIDGESTONE BATTLAX HYPERSPORT S22F BB
	後輪	DUNLOP Roadsport2 U
		BRIDGESTONE BATTLAX HYPERSPORT S22R BB
タイヤ空気圧	前輪	250 kPa (2.50 kgf/cm^2)
	後輪	290 kPa (2.90 kgf/cm^2)
最小残溝量	前輪	1.5 mm
	後輪	2.0 mm
点火プラグ	標準	IMR9E-9HES（NGK）または VUH27ES（DENSO）
プラグギャップ	(調整不可) 0.8 - 0.9 mm	
アイドル回転数	1,200 ± 100 rpm	
推奨エンジンオイル	Honda 純正　Pro Honda STANDARD	
	または下記相当品	
	JASO T 903 規格：MA	
	SAE 規格： 10W-30	
	API 分類： SJ 級以上	

エンジンオイル容量	オイル交換時	2.6 ℓ
	オイル・フィルター交換時	2.8 ℓ
	全容量	3.5 ℓ
エンジンオイル交換時期	初回： 1,000 km または 1 ヶ月	
	以後： 10,000 km または 1 年ごと	
推奨ドライブチェーンオイル	“Honda 純正チェーンオイル” または相当品	
ドライブチェーンの緩み（たるみ）	58 - 63 mm	
指定ブレーキ液	Honda 純正ブレーキフルード DOT 4	
冷却水容量	全容量	2.65 ℓ
指定ラジエーター液	Honda 純正ラジエーター液	
エアクリーナーエレメント交換時期	交換：40,000 km ごと	

■ バルブ（電球）

ヘッドライト	LED
ストップ／テールランプ	LED
フロントウィンカー／ポジションランプ	LED
リアウィンカー	LED
ライセンスプレートライト	LED

■ ヒューズ

メインヒューズ	30 A
その他のヒューズ	30 A, 15 A, 10 A, 7.5 A

索引

A

ABS 警告灯 71, 157
ABS（アンチロックブレーキシステム） 6, 157

E

ETC 車載器／ETC 表示灯／ETC アンテナ 115

H

Honda RoadSync 88
Honda SMART Key 173
Honda SMART Key 警告灯 70
Honda SMART Key システム 78

P

PGM-FI 警告灯 70, 156

ア

アクセサリー 11
アシストスリッパークラッチシステム 175
アンサーバックシステム 86
アンサーバックスイッチ 76
安全運転のために 3
安全上守っていただきたいこと 3
安全なライディング 2

イ

イグニッションカットオフシステム 176
インフォメーション 171

ウ

運転するときの注意 5

エ

エアクリーナー 123
エマージェンシーストップシグナル 103
エンジン
- エンジンオイル 133
- エンジン始動 99
- エンジンストップスイッチ 175
- エンジンナンバー 185
- エンジンブレーキ 6

エンジンがかからないとき 153
エンジンストップスイッチ 75

オ
オイルレベルゲージ..... 133
オーバーヒート..... 154
お手入れ..... 178
オドメーター..... 27, 175

カ
改造..... 11
各部の名称..... 14
ガソリン..... 9, 105
カラーラベル..... 119

キ
ギアチェンジ..... 101

ク
クイックシフター..... 102
クラッチ
クラッチ..... 140
クラッチレバー..... 140
クラッチレバーの遊び..... 140
クリップ..... 128

ケ
警告灯
ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯..... 71, 157
PGM-FI 警告灯..... 70, 156
Honda SMART Key 警告灯..... 70, 159
水温警告灯..... 69, 154
トルクコントロール警告灯..... 71, 158
トルクコントロール OFF 警告灯..... 71
油圧警告灯..... 69, 155
携帯工具..... 109

コ
交換部品..... 119
こんなときは..... 152

サ
サイドスタンド..... 7
サスペンション
フロントサスペンション..... 145
リアサスペンション..... 148

シ
シート 130
瞬間燃費 28
情報表示エリア 26
触媒装置 186
書類入れ 109, 176

ス
スイッチ
Honda SMART Key ON/OFF スイッチ 76
MODE スイッチ 74
ウィンカースイッチ 74
エンジンストップスイッチ 75
スタータースイッチ 75
セレクトスイッチ 74
ハザードスイッチ 75
パッシングライトスイッチ 74
ハンドルグリップヒータースイッチ 74, 110
左ハンドルスイッチ 74
ヘッドライト上下切り換えスイッチ 74
ホーンスイッチ 74
右ハンドルスイッチ 75
メインスイッチ 73, 175
スタータースイッチ 75
ストップ／テールランプ 177
スペック 187
スロットル 143

セ
積載について 12
洗車 178
選択エリア 31

ソ
その他装備 108

タ
タイヤ 125

チ
駐車 7

テ
ディスプレイの自動調光 176

点検
定期点検 118
日常点検 117
電装部品のトラブル 169

ト
ドライブチェーン 124, 139
トランスミッションオイル 122
トリップメーター 28, 175
トルクコントロール OFF 警告灯 71
トルクコントロール警告灯 71, 158

ナ
慣らし運転 5

ニ
ニュートラル表示灯 71

ネ
燃料
使用燃料 105
燃料計の故障表示 163
燃料タンク容量 105
燃料補給 105
燃料消費量 29

ハ
廃棄 182
ハイビームパイロットランプ（前照灯上向き表示灯） 22
ハザードスイッチ 75
パッシングライトスイッチ 74
バッテリー 120, 131
ハンドルグリップヒーター
故障表示 164

ヒ
左サイドカバー 129
ヒューズ 121, 169
表示灯
ニュートラル表示灯 71
方向指示器表示灯 70

フ

フォトセンサー 176
服装 4
ブレーキ
使いかた 5
ブレーキ液 123, 137
ブレーキシステム 5
ブレーキパッド 138
ブレーキレバー 144
フレームナンバー 185
フロントウィンカー／ポジションライト 177

ヘ

平均車速 30
平均燃費 29
ヘッドライト 177
ヘッドライト上下切り換えスイッチ 74
ヘルメット 4
ヘルメットホルダー 108
ヘルメットホルダー ワイヤー 108

ホ

方向指示器表示灯 70
ホーンスイッチ 74
保管 182
ポップアップ情報
警告 69
メンテナンス 68
ポップアップ情報表示 68

メ

メインスイッチ 73, 175
メンテナンス 116
メーター 18

ラ

ライドモード 93

リ

リアウィンカー 177
リサイクルマーク 183

レ

冷却水 123, 135

お問い合わせ

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受けいたします。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　**0120-086819**（オーハローバイク）

受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00

〒351-0188　埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日

②車種名、タイプ名、走行距離

③ご購入年月日

④販売店名

Online Owner's Manual
https://www.hondamotopub.com/HMJ

HONDA

CB1000F
CB1000F SE

30MLV600
00X30-MLV-6000

00X30-MLV-6000

CP 3500.2025.09.T
© 2025 本田技研工業株式会社